

授 業 概 要

SYLLABUS

2016

平成28年度



豊岡短期大学

目 次

カリキュラム一覧

・ 総合科目	1
・ 専門教育科目	
教科専門科目	23
教職専門科目	77

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
総 合 科 目							
生 命 倫 理			○		永 井 秀 和	1	
女 性 と 文 化			○		西 村 豊	3	
憲 法	○				野 畑 健 太 郎	5	
環 境 と 人 間			○		中 嶋 芳 雄	7	
情 報 リ テ ラ シ ー と 処 理 技 術	○	○			丸 山 幸 三	9	
健 康 科 学		○			井 上 修 治	11	
ス ポ ー ツ (実 技)	○	○			井 上 修 治	13	
キ ャ リ ア ア ッ プ I	○				担 当 教 員	15	
キ ャ リ ア ア ッ プ II		○			担 当 教 員	17	
キ ャ リ ア ア ッ プ III			○		担 当 教 員	19	
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	○				西 村 豊	21	別に定める授業科目

◎ 総 合 科 目

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生 命 倫 理	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	永井 秀和
授 業 概 要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命に関わる人間の行為について学生諸君と共に考察します。			
授 業 科 目 の 目 的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に対する人間の責任ある関わり方について、学生諸君自身の考えを表現できるようになることを目的とします。			
学 習 成 果	1. 生命の在り方、生命に対する人間の責任あるかかわり方について、自らの言葉で考えを述べるができるようになります。			
テ キ ス ト				
参 考 書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円			
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、レポート10%、試験70%により総合的に評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さを熟考しながら受講することを望んでいます。			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	生きることの証と生命（生命と物質）
2 回	生命倫理とは何か 1 倫理とは
3 回	生命倫理とは何か 2 エコロジーや医療との関係
4 回	生命倫理を考える 1 生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生命倫理を考える 2 生殖補助技術（人工授精・受精卵移植・代理母）
6 回	生命倫理を考える 3 遺伝子操作
7 回	生命倫理を考える 4 脳死と臓器移植
8 回	生命倫理を考える 5 安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理を考える 6 生命倫理と宗教との関係（1）
10 回	生命倫理を考える 7 生命倫理と宗教との関係（2）
11 回	生命倫理を考える 8 自己存在と自己決定
12 回	生命の誕生について考える 生まれること・生むこと
13 回	死について考える 1
14 回	死について考える 2
15 回	医療倫理
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
女 性 と 文 化	2 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (2 単 位)	西 村 豊
授 業 概 要	急速にグローバル化が進む中で、一億総活躍社会や男女共同参画社会の実現が叫ばれ、社会における女性の果たすべき役割の比重が大きくなるとともに、多様化しているのではないのでしょうか。このような時代にあつて、自分は社会においてどのように生き、どのような役割を果たしていけばいいのか悩み、迷っている人もいます。女性が築いてきた文化の視点から、社会を見つめ直し、自分の将来の在り方を考察していきます。			
授 業 科 目 の 目 的	女性としての人権、地位が認められるようになったと言われるものの、依然として男女差別と思われる状況が存在します。過去の歴史から学び、その知識や認識をふまえた上で、現代社会に生きる女性を俯瞰的に捉える視点や問題意識を持って、自らの生き方を考えることができるようになることを目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからのこれまでの歴史を学び、女性を理解できるようにします。 2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えることができるようにします。 3. 現代社会の女性が抱える問題点を認識し、現代社会に生きる女性の生き方を探求することができるようにします。 			
テ キ ス ト	特に指定せず、教材プリントを配付します。			
参 考 書	女性学入門/杉本貴代栄編著/ミネルヴァ書房/2,500円+税 男と女 変わる力学/鹿嶋敬/岩波新書/550円 女性の品格/坂東真理子/PHP新書/720円 男女共同参画白書平成27年版/内閣府男女共同参画局 一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策/一億総活躍国民会議			
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、課題・発表・授業態度40%で総合的に評価します。			
メ 受 講 の 心 構 え と ツ セ ー ジ と	本授業では、これまで女性が抱えてきた問題点を、講義やみなさんの調査・意見発表等で展開します。日頃からニュース等を見て、世の中の出来事に関心を持ちましょう。			
の 事 項 他				

授業内容進行表

1 回	<女性と歴史> 古代 中世 近世
2 回	<女性と歴史> 明治 大正 戦後
3 回	<平等とは> 男女共同参画社会 一億総活躍国民会議
4 回	<家族とは何か> なぜ人間は家族をつくるのか 近代家族 家族のゆくえ
5 回	<結婚1> 結婚観 配偶者 日本の婚姻率 結婚しない女性・男性
6 回	<結婚2> 結婚観 配偶者 日本の婚姻率 結婚しない女性・男性
7 回	<子育て1> 誰が担うのか、担ってきたか
8 回	<子育て2> 子育て政策と今後について
9 回	<身近な女性の生き方から学ぶ 1> レポート作成
10 回	<身近な女性の生き方から学ぶ 2> レポート作成
11 回	<身近な女性の生き方から学ぶ 3> 発表
12 回	<家庭生活> 家事・地域とのふれあい
13 回	<困難を抱える女性> 貧困 暴力（男性の子ども・女性に対する） 性
14 回	<高齢者問題> 高齢者と介護 誰が担うのか、担ってきたのか
15 回	<まとめ> 女性の歴史と自分の将来像
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
憲法	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野畑 健太郎
授業概要	日本国憲法の全体像が理解できるように講義していきます。日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって、日本国憲法の基本的事項の理解をはかります。重要条文については、偏りのない解釈に基づいて丁寧な解説を心掛けていきます。			
授業科目の目的	日本国憲法について、以下の事柄を理解することが、この講義の目的となります。すなわち、憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成っています。この二つは相互に密接に結びついているものです。別言すれば、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつけられています。権力分立に基づく統治機構は、人権保障に奉仕することになります。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保されていきます。これが憲法の基本的構造であり目的といえます。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況でこそ、初めて機能します。以上のことを授業を通じて、実感できるようにすることが、講義のねらいです。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「憲法」の基本概念と「人権」の概念について概要を説明できるようにします。 2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概要を説明できるようにします。 3. 日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できるようにします。 			
テキスト	現代憲法概説/上田正一/嵯峨野書院/3,300円			
参考書	ポケット六法/有斐閣、 デイリー六法/三省堂、 コンサイス六法/岩波書店、など			
基成績評価 準価	定期試験90%、平常点(受講態度) 10%で総合的に評価します。			
受講の心構えと メッセージ	<p>憲法を学ぶ人たちがよく口にするのが、「とっつきやすいが、難しい」、「よくわからない」、「好きになれない」といった言葉です。確かに「日本国憲法」は、社会科学の教科書にも出てくる基本学習項目で、「とっつきやすい」科目といえますが、憲法は間口が広いとともに、法律科目の中でも、特に奥行きが深い科目です。憲法に関する多量で多様な事柄に接したとき、何を、どのように学べばよいのか、戸惑いを感じる人たちが少なくないと思います。そこで、授業では憲法への親しみがわくよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントによる講義を試みます。加えて、授業とテキストの理解を助ける紙媒体として、毎回、授業内容に関するプリント(レジュメ・資料)を配付します。憲法を初めて学ぶ皆さんが憲法を理解し、少しでも好きになってくれるよう、わかりやすい説明を心がけ、皆さんの理解の助けとなるような表現方法を試みていきたいと思います。授業はテキストに沿って進めていきますので、テキスト(の予習・復習)は欠かせないものとなります。初めのうちは難しいと感じるかもしれませんが、授業に出席し、<u>私語等をしないで授業に専念すれば</u>、徐々に分かるようになってくると思います。</p>			
その他事項	受講者の理解度に応じて授業を進めるため、予定した15回の授業内容と進度にずれが生じる場合があることを了解してください。受講者を置き去りにした授業はしないように心掛けていきます。			

授業内容進行表

1 回	<憲法と立憲主義> 1. 憲法とは何か：憲法の意味 / 憲法の分類 / 憲法の特質 2. 立憲主義、近代憲法、現代憲法
2 回	<日本憲法史> 1. 明治憲法：特質 2. 日本国憲法：憲法の制定 / 憲法制定の法理 <日本国憲法の構成と基本原理> 1. 日本国憲法の構成 2. 日本国憲法の基本原則
3 回	<象徴天皇制> 1. 天皇の地位 2. 天皇の権能 3. 天皇の行為の種類 <平和主義の原理> 1. 平和主義と平和的生存権 2. 憲法9条の解釈と運用
4 回	<人権宣言の歴史> 1. 近代的人権宣言の確立・歴史 2. 明治憲法と日本国憲法の人権保障 <人権の観念とその類型> 1. 人権の観念 2. 人権の類型 3. 新しい人権の問題
5 回	<人権の享有主体> 1. 国民 2. 外国人 <人権保障の限界と「公共の福祉」> 1. 概念 2. 権利制約の論理 <特別の法律関係にある者の人権> 1. 公務員の人権 2. 受刑者等
6 回	<私人間における人権の保障と限界> 1. 学説 2. 判例 <包括的基本権(1)> 1. 生命、自由および幸福追求権の位置と性格 2. 思想的源 3. 個人の尊重・幸福追求権の法的性格
7 回	<包括的基本権(2)> 1. プライバシーの権利 2. 名誉権 3. 環境権 4. 自己決定権 <法の下での平等> 1. 歴史 2. 意味 3. 平等原則 4. 不合理な差別の禁止 5. 貴族制度の廃止
8 回	<内心の自由> 1. 思想・良心の自由 2. 信教の自由 3. 国家と宗教の分離 4. 学問の自由 5. 大学の自治 <表現の自由(1)> 1. 規制 2. 形態と内容 3. 報道・取材の自由
9 回	<表現の自由(2)> 1. 性的表現の自由 2. 名誉毀損表現 3. 知る権利・アクセス権 4. 集会・結社の自由 5. 通信の秘密 <人身の自由(1)> 1. 奴隷的拘束・苦役からの自由 2. 適正手続の保障
10 回	<人身の自由(2)> 1. 被疑者の権利 2. 被告人の権利 3. 拷問・虐刑の禁止 <経済的自由権> 1. 居住・移転の自由 2. 職業選択の自由 3. 外国移住・国籍離脱の自由 4. 財産権
11 回	<社会権(1)> 1. 生存権 2. 生存権の法的性格 3. 生存権の内容 4. 環境権の憲法的根拠 5. 環境権の内容と裁判例 6. 教育を受ける権利の意義 7. 教育を受ける権利の法的性格
12 回	<社会権(2)> 1. 教育を受ける権利の内容 2. 労働権の性格 3. 労働権の内容 4. 労働基準の法定 5. 児童酷使の禁止 6. 労働基本権の性格 7. 労働基本権の内容と限界
13 回	<国務請求権と参政権> 1. 裁判を受ける権利 2. 国家賠償権 3. 刑事補償請求権 4. 請願権 5. 公務員の選定・罷免権 <国民の義務> 1. 教育の義務 2. 勤労の義務 3. 納税の義務
14 回	<統治機構> 1. 選挙 / 政党 2. 国会 3. 内閣 4. 裁判所
15 回	<財政・地方自治> 1. 財政の基本原則 2. 予算 3. 地方自治の本旨 4. 住民自治 <憲法の保障> 1. 憲法改正手続き 2. 憲法改正の限界
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 と 人 間	2 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (2 単 位)	中 嶋 芳 雄
授 業 概 要	<p>「環境」は現代社会における最も重要な社会問題の一つといえる。一方、人間は地球環境の中に生を受け、生かされて生活し、次世代へと生命をつなぐ生物でもある。地球環境を良好に維持することは現在に生きる人間の責任でもあり、生きとし生きる生物に対する責務でもある。本授業では、環境と人間の関係を様々な観点から学び、現代社会のあり方を身近な問題として見直し、未来に向けて人類がどう対処すべきか、また今我々に何ができるかを考えることにより、環境問題と健康に関心を持ち、生命を大切に子ども達を育てる力を涵養していくことをねらいとするものである。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>地球の環境（とくに自然環境を軸として）と人間に関する諸問題（環境破壊、エネルギー問題など）を学ぶ中で、1. その原因や背景、2. 現状と影響、3. 対応策などについて考え、理解を深める。また、自然との共生や他者・他国との共生も視野に入れた持続可能な社会環境や人間のあり方を考えていくことをその目的とするものである。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境についての基本的な知識を学び、多角的な視点から捉え考察できるようにする。 2. 人ごと・よそ事ではなく、自分の身近な問題として環境問題やエネルギー問題を捉え、考察できるようにする。 3. 問題意識を持って自らの周囲に目を向け、環境問題に取り組もうとする意識・姿勢・態度を養うことができるようにする。 			
テ キ ス ト	<p>地球環境学入門/山崎友紀/講談社/2,800円 (その他、必要に応じてプリント教材を配布します。また場合によってはビデオやDVD等視聴覚教材も利用します)</p>			
参 考 書	<p>生活環境の科学/佐島群巳・横川洋子 編著/学文社/1,800円 (サイエンスNOW 3) 環境の危機/福井謙一 総監修/平凡社/ 生活と環境/藤城敏幸 著/東京教学社/1,900</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>授業に取り組む「意欲・態度」 20%、「レポート・発表」 20%、「定期試験」 60%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ ク ー ジ の 心 構 え と	<p>近年、環境問題とエネルギー問題は地球規模の喫緊の課題として取り上げられている。日々の生活の中で環境に関するニュースや情報などに関心を持ち、自らの頭で考えるようにしてください。</p> <p>また、授業内では、環境破壊やエネルギー問題に関する視聴覚教材を用いたり、各自の関心あるテーマに沿って研究・発表も実施したいと考えています。積極的に授業参加すること、予習復習の意識を持つことを求めます。</p>			
そ の 他	<p>内容は学生の関心、理解度、授業の流れにより、多少変更することもある。</p>			

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	「大気汚染」について
3 回	「水の問題と水質汚染」について
4 回	「ゴミ問題とリサイクル」について
5 回	「地球環境の温暖化とオゾン層の破壊」について
6 回	「食の問題と食の安全1」について
7 回	「食の問題と食の安全2」について
8 回	「その他の環境問題」について
9 回	「最近話題の呼吸器疾患」について
10 回	望ましい消費者となるために
11 回	「自然と生態系」について
12 回	「開発と環境」について
13 回	「環境倫理と生命倫理」について
14 回	「環境としての情報化社会」について
15 回	総復習
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
情報リテラシーと処理技術	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	丸山 幸三
授業概要	Windowsの基本操作、ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる表やグラフの作成、インターネットの利用など、演習を通じて学習します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につけます。 2. インターネットの活用能力を身につけます。 3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての知識を身につけます。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの仕組みと基本操作を理解することができます。 2. インターネットの基本概念を理解し、活用する能力が身につきます。 3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての知識能力が身につきます。 4. ワープロソフトを活用し、基本的な文書を作成する能力が身につきます。 5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力が身につきます。 6. ホームページの仕組みが理解できます。 			
テキスト	授業内でプリント等を配付します。			
参考書	<p>情報セキュリティ読本 四訂版/実教出版 インターネット社会を生きるための情報倫理/実教出版 ネットワーク社会における情報の活用と技術/実教出版</p>			
成績評価基準	定期試験60%、提出課題30%、学習態度10%をもとに総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>課題として、演習において作成したファイルなどの提出を指示することがあります。提出された課題については、試験成績、学習態度とともに評価の対象としますので、提出忘れのないようにしてください。この分野は成長が著しく、常に最新の動向を捉えておく必要があります。ここで習得した知識を基本に、今後の変化にも柔軟に対応できるようになりましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業目標、成績評価、教室・情報機器を利用する上での注意等の説明	16 回	<表計算ソフトの基本①> 表計算ソフトの概要
2 回	<情報倫理> 個人情報・知的財産・情報モラルについて	17 回	<表計算ソフトの基本②> 計算式の利用
3 回	<情報管理と情報セキュリティ> 情報管理、情報セキュリティ、ネット犯罪について	18 回	<表計算ソフトの基本③> 基本的な関数の利用
4 回	<ハードウェアとソフトウェア> パソコン、周辺機器、ソフトウェアについて	19 回	<表計算ソフトの基本④> 応用的な関数の利用
5 回	<Windowsの基本操作> Windowsの基本操作、ファイル操作、付属アクセサリ等について	20 回	<表計算ソフトの基本⑤> グラフの作成
6 回	<ネットワークの基礎> ネットワーク、インターネット、電子メールの仕組みや、活用方について	21 回	<表計算ソフトの基本⑥> データベースの利用
7 回	<Web ページ①> Web ページの仕組みと HTML について	22 回	<表計算ソフトの基本⑦> ブック・ワークシートの操作
8 回	<Web ページ②> Web ページの仕組みと HTML について	23 回	<表計算ソフトの基本⑧> シート分析と入力規則
9 回	<マルチメディアの活用①> サウンド及び、ビデオコンテンツについて	24 回	<表計算ソフトの基本⑨> ピボットテーブルの利用
10 回	<マルチメディアの活用②> サウンド及び、ビデオコンテンツについて	25 回	<表計算ソフトの基本⑩> マクロの利用
11 回	<ワープロソフトの基本①> 文書入力と書式設定	26 回	<表計算ソフトの活用①> 表計算ソフトを使った課題制作
12 回	<ワープロソフトの基本②> 図形や表の操作	27 回	<表計算ソフトの活用②> 表計算ソフトを使った課題制作
13 回	<ワープロソフトの基本③> イラストや画像の操作	28 回	<ワープロソフトの活用①> ワープロソフトを使った課題制作
14 回	<プレゼンテーションソフト①> プレゼンテーションソフトを使っての学習教材作成	29 回	<ワープロソフトの活用②> ワープロソフトを使った課題制作
15 回	<プレゼンテーションソフト②> プレゼンテーションソフトを使っての学習教材作成	30 回	<まとめ> 本授業の振り返りと情報教育の今後について
		【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
健 康 科 学	1 年 ・ 後 期	講 義	15時間 (1 単 位)	井 上 修 治
授 業 概 要	健康科学のテキストとスポーツに関する視聴覚教材を使用した講義と演習で科学的な根拠に根ざした健康づくりを学びます。グループでの課題研究発表も行います。			
授 業 科 目 の 目 的	日々、健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境や生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えることができるようになります。 2. 救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計(薬物・アルコール・たばこ・エイズ等) への自己の認識を確立し、実践できるようにします。 			
テ キ ス ト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参 考 書				
成 績 評 価 基 準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート・発表30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができてきているか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識を習得・理解できているか。 			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み科学的健康づくりを実践することを求めます。課題レポートは、本学図書館等を活用し完成させてください。			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
2 回	運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
3 回	運動生理学 運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経について知識を深める
4 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ
5 回	運動処方1 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
6 回	運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて
7 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
8 回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ (実技)	1年・通年	実技	45時間 (1単位)	井上 修治
授業概要	<p>各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わいます。仲間と身体活動を行う中で自己の体力・健康の保持増進を図ります。将来、保育者、指導者としての子ども達への指導法や競技の運営について学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とします。講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的のスポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学びます。各種のスポーツを仲間とともに技能の上達を図りながら楽しみ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球を仲間とともに楽しみ、技術の上達を図ることができるようにします。 各スポーツのルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになります。 ニュースポーツについて体験し、指導者としての知識を獲得できるようにします。 			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、実技・技能30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーシップや周りへの配慮ができていますか。 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 実技・技能では、技能が発揮できるとともに、チームメイトへの指導力も備えているか。 定期試験では、知識を習得・理解ができていますか。 			
受講の心構えとメッセージ	<p>この講義を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えてみましょう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見することが大切です。スポーツ (実技) は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践してください。また、予復習としては、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組み健康づくりを行ってください。課題レポートは、本学の図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	<p>実技では、運動のできる服装・シューズを準備し指導者 (保育士) の心構えを身につけよう。</p>			

授業内容進行表

1 回	ガイダンス スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ	16 回	バドミントン4 ダブルスのゲームをリーグ戦方式で楽しみ上達する
2 回	バレーボール1 基本練習・ルール説明・障害者スポーツについて学ぶ	17 回	ニュースポーツ1（テーパーボール）を楽しむ
3 回	バレーボール2 応用練習でバレーボールの技能を上達しゲームを楽しむ	18 回	ニュースポーツ2（テーパーボール）を楽しむ
4 回	バレーボール3 バレーボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ。審判も学ぶ	19 回	卓球1 シングルの基本練習で技能の上達を図る
5 回	バレーボール4 技能を上達させ、作戦を立ててゲームを楽しむ。審判も学ぶ	20 回	卓球2 シングルのルールを学び、技能の上達を図りリーグ戦方式でゲームを楽しむ
6 回	バスケットボール1 基本練習・ルール説明について学ぶ	21 回	卓球3 シングルの技能の上達を図り、リーグ戦方式でゲームを楽しむ
7 回	バスケットボール2 応用練習でバスケットボールの技能を上達しゲームを楽しむ	22 回	卓球4 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ
8 回	バスケットボール3 バスケットボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ	23 回	卓球5 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ
9 回	バスケットボール4 技能を上達させ、作戦を立ててゲームを楽しむ。審判も学ぶ	24 回	
10 回	ニュースポーツ（綱引き競技）を楽しむ	25 回	
11 回	ニュースポーツ1（アジャタ玉入れ）を楽しむ	26 回	
12 回	ニュースポーツ2（アジャタ玉入れ） チーム対抗でゲームを楽しむ	27 回	
13 回	バドミントン1 バドミントンの基本練習で技能の上達を図る	28 回	
14 回	バドミントン2 ダブルスの基本練習・応用練習・ルールを学びゲームを楽しむ	29 回	
15 回	バドミントン3 ダブルスでゲームを楽しみ、上達する	30 回	
		【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップ I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>「マナー」は、社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を実践的に学びます。「一般常識」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、観察から文章を書く学習と、発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>学生一人ひとりが、将来の自分をイメージしながら、社会で活動するための力を養うことが目的です。社会人・保育者として必要なマナーや教養を身につけることを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。 「マナー」は、授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。 「一般常識」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。 「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は、マナー50%、一般常識25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセージト	<p>「マナー」、「一般常識」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 建学の理念に基づく教養的学習成果（有用な社会人、保育者になるために） マナー・一般常識・作文の授業内容 一般常識テスト
2 回	図書館の利用について（説明及び検索の仕方） マナー1 服装・身だしなみ
3 回	マナー2 敬語の使い方（理論と実践） 敬語の意義、敬語の種類、保育教育の場での敬語実践
4 回	マナー3 表情・挨拶（お辞儀の仕方）・歩き方（会釈も含む）
5 回	マナー4 電話のかけ方・受け方、掃除の仕方（1） 電話のかけ方の基本①（実習依頼の仕方） 清掃の基本①（雑巾のしぼり方・拭き方、箒の使い方 実践）
6 回	マナー5 電話のかけ方・受け方、掃除の仕方（2） 電話のかけ方の基本②（実習依頼の仕方） 清掃の基本②（雑巾のしぼり方・拭き方、箒の使い方 実践）
7 回	マナー6 聞き取りやすい話し方（理論と実践）
8 回	マナー7 食事のマナー（箸の使い方）、お茶の入れ方、出し方
9 回	一般常識1 一般常識テスト・解説等（1） 作文1 観察したことを記録する「風景」
10 回	一般常識2 一般常識テスト・解説等（2） 作文2 観察したことを記録する「絵本（1）」
11 回	一般常識3 一般常識テスト・解説等（3） 作文3 観察したことを記録する「絵本（2）」
12 回	一般常識4 一般常識テスト・解説等（4） 作文4 観察したことを記録する「動画・・・3分間クッキング」
13 回	一般常識5 一般常識テスト・解説等（5） 作文5 観察したことを記録する「動画・・・園児の生活（1）」
14 回	一般常識6 一般常識テスト・解説等（6） 作文6 観察したことを記録する「動画・・・園児の生活（2）」
15 回	一般常識7 まとめ テスト・解説等 作文7 観察したことを記録する「動画・・・園児の生活（3）」
【定期試験】 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップⅡ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般常識」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習し、一般常識模擬試験を実施することにより自己の力を客観的に分析します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して常識と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>キャリアアップⅠの学習をさらに深め、学生自身が、将来を見据えて、就職に必要な知識とスキルを高め、社会人・保育者としての質の向上を目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な常識を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。 「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 「一般常識」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。 「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は、保育50%、一般常識25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えと	<p>「保育」と「一般常識」、「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。短期間では身につけませんので、主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	一般常識1 一般常識テスト・解説等（1） 作文1 表記について
3 回	一般常識2 一般常識テスト・解説等（2） 作文2 自己分析をする（長所、短所を文章にする 自己及び他人からの分析）
4 回	一般常識3 一般常識テスト・解説等（3） 作文3 自己紹介文の作成
5 回	一般常識4 一般常識テスト・解説等（4） 作文4 自己紹介の実践（実習での職員に向けたもの、子どもの向けたもの）
6 回	一般常識5 一般常識テスト・解説等（5） 作文5 自己紹介をする（実践：一人2分程度）
7 回	一般常識6 一般常識模擬試験（1）
8 回	一般常識7 一般常識模擬試験（2）
9 回	保育1 保育観察・理解（子どもの発達 0歳～2歳）（1）
10 回	保育2 保育観察・理解（子どもの発達 0歳～2歳）（2）
11 回	保育3 保育観察・理解（保育者の援助 0歳～2歳）（1）
12 回	保育4 保育観察・理解（保育者の援助 0歳～2歳）（2）
13 回	保育5 保育観察・理解（環境 3歳～5歳）
14 回	保育6 保育観察・理解（子どもの姿 3歳～5歳）
15 回	保育7 保育観察・理解（保育者の援助 3歳～5歳）
【定期試験】 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅢ	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般常識」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、模擬保育を行い、実践的学習を通して、保育者としての資質を高める内容を実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会人・保育者に求められる「自ら考え、行動し、協力し合える力」の向上を目指します。学生一人ひとりが将来に向けて、目標を持ち、計画を立てて、この演習での学びを充実させ自分自身のキャリアアップを図ることが目的です。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができます。 2. 社会人・保育者として必要な一般常識を身につけることができます。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。 「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 「一般常識」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。 「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は、保育50%、一般常識25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセー	<p>学生一人ひとりが、卒業後の進路希望の実現をめざす授業内容です。就職することで各自のキャリアがスタートしますが、その就職活動に実際に取り組む際に必要な基本的知識と技術を身につけ、就労意識を高めて、適切な職業選択に役立てましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	模擬保育 1 3歳～5歳児（1）
3 回	模擬保育 2 3歳～5歳児（2）
4 回	一般常識 1 一般常識・保育模擬テスト（1）
5 回	一般常識 2 一般常識・保育模擬テスト（2）
6 回	模擬保育 3 3歳～5歳児（3）
7 回	模擬保育 4 0歳～2歳児（1）
8 回	模擬保育 5 0歳～2歳児（2）
9 回	模擬保育 6 0歳～2歳児（3）
10 回	模擬保育 7 0歳～2歳児（4）
11 回	一般常識 3 一般常識テスト・解説等（1） 作文 1 小論文について 小論文とは 小論文の基本（原稿用紙の使用方法を含む）
12 回	一般常識 4 一般常識テスト・解説等（2） 作文 2 テーマをもとに小論文を書く（600字程度 時間内に書く）
13 回	一般常識 5 一般常識テスト・解説等（3） 作文 3 テーマをもとに小論文を書く（600字程度 時間内に書く）
14 回	一般常識 6 一般常識テスト・解説等（4） 作文 4 テーマをもとに小論文を書く（600字程度 時間内に書く）
15 回	一般常識 7 まとめ テスト・解説等 作文 5 テーマをもとに小論文を書く（600字程度 時間内に書く）
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーション	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	西村 豊
授業概要	<p>テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読んでいきます。また、保育者と子どもや保護者との会話に使われる表現や、連絡事項の書き方を学習します。授業中には英語で話す機会を出来るだけ多く設けます。</p>			
授業科目の目的	<p>急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場で必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。 2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。 3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学びながら日本語との違いや日本語に対する意識を高め、表現力が向上するようにします。 			
テキスト	新・保育の英語/森田和子/三修社/1,995円			
参考書	保育の英会話/赤松直子、久富陽子/萌文書林/2,160円			
成績評価基準	定期試験60%、課題・小テスト・授業態度 40%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>学習の効果を上げるためには、テキストを使った家庭での学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。電子辞書ではなく紙の英和辞典を持参してください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	< The School Year Begins > 本文の読解、基本表現、演習
2 回	< Arrival > 本文の読解、基本表現、演習
3 回	< Playtime in the Classroom > 本文の読解、基本表現、演習
4 回	< In the Sandbox > 本文の読解、基本表現、演習
5 回	< Grammar 1 > 一般動詞・be 動詞
6 回	< Lunchtime > 本文の読解、基本表現、演習
7 回	< Changing Clothes and Story Time > 本文の読解、基本表現、演習
8 回	< Nap Time > 本文の読解、基本表現、演習
9 回	< A Sick Child > 本文の読解、基本表現、演習
10 回	< Grammar 2 > 疑問文・否定文・命令文
11 回	< Preparation for Sports Day > 本文の読解、基本表現、演習
12 回	< The Sports Day > 本文の読解、基本表現、演習
13 回	< Going for a Walk > 本文の読解、基本表現、演習
14 回	< Discovering Autumn > 本文の読解、基本表現、演習
15 回	< Grammar 3 > 前置詞
【定期試験】 (有) ・ 無	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
教科専門科目							
こ ども 学 概 論		○			茨 木 金 吾	23	
児 童 家 庭 福 祉		○			安 達 美 穂	25	
社 会 福 祉 論	○				森 合 真 一	27	
相 談 援 助				○	森 合 真 一	29	別に定める授業科目
保 育 相 談 支 援				○	岡 本 妙 子	31	
こ ども と 音 楽	○				茨 木 金 吾	33	
こ ども と 器 楽・うた			○		田上・大江・大谷・松本	35	
こ ども と 器 楽・うたⅡ				○	田上・大江・大谷・松本	37	
こ ども と 造 形Ⅰ	○				岩 田 健 一 郎	39	
こ ども と 造 形Ⅱ				○	岩 田 健 一 郎	41	別に定める授業科目
こ ども と 体 育Ⅰ	○				伊 藤 宏 俊	43	
こ ども と 体 育Ⅱ		○			伊 藤 宏 俊	45	
こ ども と 文 学			○		小 西 律	47	
家 庭 支 援 論		○			岡 本 妙 子	49	
こ ども の 保 健Ⅰ			○		谷 岡 ま さ 子	51	
こ ども の 保 健Ⅱ				○	谷 岡 ま さ 子	53	
こ ども の 保 健Ⅲ				○	原 田 玻 瑠 美	55	
保 育 原 理	○				岡 本 妙 子	57	
社 会 的 養 護	○				安 達 美 穂	59	
精 神 保 健			○		野 口 和 也	61	
こ ども の 食 と 栄 養			○	○	岡 崎 典 子	63	
障 害 児 保 育		○			岡 本 妙 子	65	別に定める授業科目
地 域 ボ ラ ン テ ィ ア	○	○	○	○	中 嶋 芳 雄	67	
特 別 研 究Ⅰ	○	○			担 当 教 員	69	
特 別 研 究Ⅱ	○	○			担 当 教 員	71	
特 別 研 究Ⅲ			○	○	担 当 教 員	73	
特 別 研 究Ⅳ			○	○	担 当 教 員	75	
教職専門科目							
教 職 論			○		芦 田 哲	77	
教 育 原 理		○			伊 藤 博	79	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	81	
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	83	
こ ども と 文 化	○	○			小 西 律	85	
教 育 課 程 論			○		宿 南 久 美 子	87	
保 育 内 容 総 論				○	宿 南 久 美 子	89	
こ ども と 健 康		○			片 岡 巧	91	
こ ども と 人 間 関 係		○			野 口 和 也	93	
こ ども と 環 境	○				栗 岡 あ け み	95	
こ ども と 言 葉		○			小 西 律	97	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
こどもとリズム表現		○			茨 木 金 吾	99	別に定める授業科目
こどもと造形表現Ⅰ		○			岩 田 健 一 郎	101	別に定める授業科目
こどもと造形表現Ⅱ			○		岩 田 健 一 郎	103	別に定める授業科目
こどもと言語表現			○		小 西 律	105	
こどもと音楽表現	○	○			田上・大江・大谷・松本	107	
教育方法論			○		伊 藤 博	109	
教育相談				○	伊 藤 博	111	
乳幼児保育			○		井 上 美 由 紀	113	別に定める授業科目
社会的養護内容		○			森 合 真 一	115	別に定める授業科目
教育実習			実習		宿 南 久 美 子	117	
教育実習事前・事後指導		○	○	○	宿 南 久 美 子	119	
保育実習Ⅰ	実習				栗 岡 ・ 安 達	121	
保育実習指導Ⅰ	○	○	○		栗 岡 ・ 安 達	123	別に定める授業科目
保育実習Ⅱ			実習		栗 岡 あ け み	125	
保育実習指導Ⅱ			○	○	栗 岡 あ け み	127	別に定める授業科目
保育実習Ⅲ			実習		岡 本 妙 子	129	
保育実習指導Ⅲ			○	○	岡 本 妙 子	131	別に定める授業科目
保育・教職実践演習（幼稚園）				○	宿 南 ・ 赤 澤	133	別に定める授業科目
保育実習指導Ⅰ（2年生）			○		栗 岡 ・ 安 達	135	別に定める授業科目

◎專門教育科目

○教科專門科目

○教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども学概論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	茨木 金吾
授業概要	<p>こども学を支えてきた基礎科学として、教育、保育、福祉、心理、保健、栄養、法律、音楽、美術、文学、自然科学、生活、文化、体育、語学、情報などを挙げることができます。これら学問領域において、それぞれ「こども」について取り組みがおこなわれてきました。しかし、「こども」はひとりの人間として存在し、「こども」時代を生きていると言えます。特に幼児期を、一つの領域から理解するだけでなく、学際的(様々な分野が関わること)に「こども」を理解することは、保育者を志すみなさんにとって必要不可欠なことです。「こども」について認識し、よき「こども」の理解者となるように学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>誰でも「こども」であった時代があり、そしていつか「こども」ではなくなる時期を迎えます。</p> <p>「こども」とは、いったいどのような存在なのでしょう。この授業では、「こども」を多面的に見ることによって、「こども」についての理解を進めることを目的としていきます。</p> <p>また、社会で起こりうる様々な事例を通して「こども」について考え、深い「こども」観を持った保育者になるよう学んでいきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「こども」を学際的な目を持って捉えることができるようになります。 2. 「こども」を多様な立場から考察することができるようになります。 3. 現代の「こども」に関わる様々な問題を事例を通して理解し、自らの考えを深めることができるようになります。 			
テキスト	<p>こども学序説/吉岡真知子編/ナカニシヤ出版/2,500円+税 ※必要に応じて、考察資料としてのプリントを配付します。</p>			
参考書	<p>子ども学概論/稲垣由子/丸善プラネット/1,600円+税 新学力観に立つ子ども理解と評価法の改善/森成美他/明治図書/2,060円+税 チャイルドラインで学んだ子どもの気持ちを聴くスキル/山口祐二/ミネルバ書房/1,600円+税 私のこども学ノート/間藤侑/わかば社/1,600円+税</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習態度・意欲……20% 2. 事例研究と考察についての取り組み……20% 3. 定期試験……60% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>こども学科で学ぶ学生として、「こども」とは何か、改めて考えてほしいと思います。「こども」とはどのような存在であり、どう育てていくのか。どのように育ててほしいのか。「こども」に興味を持ち、様々な観点から「こども」について考え、共に学びあっていきましょう。</p> <p>また、より深い学びとするためにも授業外での復習と予習を怠らないでください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 「こども学」とは……「児童学」から「こども学」へ
2 回	<「こども」とは? 1> 「こども」と法令
3 回	<「こども」とは? 2> 「こども」と教育
4 回	<「こども」とは? 3> 「こども」と健康
5 回	<「こども」とは? 4> 「こども」と栄養
6 回	<「こども」とは? 5> 「こども」と福祉
7 回	<「こども」とは? 6> 「こども」と文学
8 回	<「こども」とは? 7> 「こども」と造形
9 回	<「こども」とは? 8-1> 「こども」と音楽
10 回	<「こども」とは? 8-2> 「こども」と音楽
11 回	<「こども」とは? 9> 「こども」と遊び
12 回	<「こども」とは? 10> 「こども」と環境
13 回	<「こども」とは? 11> 「こども」と情報教育
14 回	<「こども」とは? 12> 現代の「こども」について、その事例研究と考察
15 回	<まとめ> こども学のこれから / まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	安達 美穂
授業概要	<p>現代社会において、子どもや家庭を取り巻く環境がどのような状況にあるのかを明らかにし、子ども家庭福祉の理念や制度を理解することにより、そのルールに基づいた実践の方法を習得します。</p> <p>また、保育士として必要な児童福祉法や児童虐待防止法などの法律と制度を理解し、児童家庭福祉の実情や各種の福祉制度等に関する基礎知識の理解を深めます。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもや家庭を取り巻く環境、子ども家庭福祉施策を概説し、具体的な支援の在り方や保育者の役割について理解し、実践につなげることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義とその歴史の変遷について理解する。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性および児童の権利擁護について理解を深める。 3. 児童家庭福祉制度や、児童家庭福祉に関連する法律、実施体制などについて理解する。 4. 児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢と課題、福祉ニーズについて理解する。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童や家庭を取り巻く環境についての現状と課題が理解できる。 2. 児童家庭福祉の理念と実施体系について関係づけて考えることができる。 3. 望ましい福祉観と支援観を持ち、保育士として実践することができる。 4. 児童家庭福祉の制度と実施体系を歴史的背景と関連して考えられる。 5. 社会的養護で学習したことを応用し、関連づけて考察することができる。 6. 児童家庭福祉の現状や動向、今後の展望を論ずることができる。 			
テキスト	保育と児童家庭福祉／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 原則として、授業毎に資料を配付する。			
参考書	保育と社会的養護原理／櫻井 奈津子 編集／みらい書房 保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館 社会福祉小六法 他			
成績評価基準	定期試験を50%、小テスト10%、授業ごとの演習問題20%、児童家庭福祉への関心・受講態度等20%（講義中の態度と意欲も加味します。）により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料とテキスト、参考書を中心に演習を進めるので、指定されたものを持参すること。 ・専門用語や援助技術に関してわからない項目について、資料や参考書を基にして各自調べておくこと。 ・授業後には配布資料やワークシート等をポートフォリオにまとめて事後学習に活用すること。 ・授業で指示した演習課題を評価の対象とするので、期限を守って提出すること。 <p>*毎時間ごとの演習問題については、原則として、授業終了後に全て解答し提出することとします。また、提出できない場合は、次の授業までに完成させて提出すること。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	授業内容などについてのガイダンス 児童家庭福祉とは何か 理念と概念
2 回	児童を取り巻く状況 子どもと家庭の状況 少子化 家族・社会・地域の変容
3 回	子どもの権利 権利保障の歴史 子どもの権利を護る取り組み
4 回	児童家庭福祉の歴史 イギリス・アメリカ・日本 各々の児童家庭福祉
5 回	児童家庭福祉の制度と法体制 児童福祉法とその他の関連法律
6 回	児童家庭福祉行財政と実施機関と施設・事業
7 回	子育て支援サービスと児童の健全育成 少子化と子育て支援サービス、エンゼルプラン
8 回	母子保健サービス 母子保健の理念、サービスの実施と体系、取り組み
9 回	保育サービス 多様な保育ニーズへの対応 保育所と待機児童の問題、各種保育サービス
10 回	児童虐待とDV 児童虐待、ドメスティックバイオレンス 社会的養護との関連性 代替的養護、社会的養護の状況と今後の課題
11 回	ひとり親家庭への福祉 現状と生活状況、サービスの概要
12 回	障害のある子どもの福祉 新たな福祉観、定義と現状、福祉政策
13 回	情緒障害・少年非行問題への対応
14 回	児童家庭福祉専門職と連携1 専門機関・専門職や関連機関との連携 児童家庭福祉のまとめ1 児童家庭福祉の動向と展望
15 回	児童家庭福祉専門職と連携2 児童家庭福祉の専門性と連携の重要性と留意点 児童家庭福祉のまとめ2 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会福祉論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	森合 真一
授業概要	2000(平成12)年には社会福祉事業法が改正(社会福祉法)、介護保険制度もスタートし、その後、障害者自立支援法(現:障害者総合支援法)が施行され、あるいは、次世代育成支援対策、高齢者医療保険改革など、我が国の社会福祉制度は大きな変革を辿っています。このような現状において社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるよう、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていきます。			
授業科目の目的	一人ひとりの幸せを目指す社会福祉政策、生活の質およびフィールドにおける実践の内実は、決して十分とは言えませんが、私たちは社会福祉の実現を目指していく努力を惜しんではならないと考えます。このような視点に立って、現代社会における社会福祉の意義、理念、そして、社会福祉の制度、法体系および行財政の要旨などについて理解をします。そして、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学びます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷が理解できるようにします。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨が理解できるようにします。 3. 社会福祉における公私の役割が理解できるようにします。 4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割が理解できるようにします。 5. 社会福祉関連領域の概要が把握できるようにします。 6. 利用者保護の制度、活動が理解できるようにします。 			
テキスト	社会福祉の基本と課題/井村圭壯・相澤譲治 編著/勁草書房/2015年/2,400円(本体価格)			
参考書	社会福祉と私たちの生活-保育を学ぶ人のために/小林育子・一瀬早百合共著/萌文書林/2016年/1,800円(本体価格)			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点(講義中の態度・意欲など)を20%とする。			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと。また、講義後に講義内容の復習をしておくこと。 			
その他	講義内でレポートを課した場合、そのレポートの評価は平常点に含む。			

授業内容進行表

1 回	<生活と社会福祉1> 現代の生活と社会福祉について
2 回	<生活と社会福祉2> 社会福祉と社会保障、保健・医療・福祉の連携について
3 回	<社会福祉の歴史1> 欧米の社会福祉の歴史について
4 回	<社会福祉の歴史2> 我が国の社会福祉の歴史について
5 回	<社会福祉の法律> 社会福祉法、福祉六法、関連した法律について
6 回	<社会福祉の行政組織> 国・地方の行政組織、行政組織の関連施設および機関について
7 回	<社会福祉の民間活動> 社会福祉における民間活動の内容および課題について
8 回	<社会福祉従事者> 社会福祉従事者の資格制度、専門性と倫理について
9 回	<社会福祉における相談援助> 相談援助の意義と原則、相談援助の方法と技術について
10 回	<社会福祉における利用者保護の仕組み> 情報提供と第三者評価、権利擁護と苦情解決について
11 回	<児童家庭福祉の概要> 児童家庭福祉の制度および課題について
12 回	<高齢者保健福祉の概要> 高齢者保健福祉の制度および課題について
13 回	<障がい者福祉の概要> 障がい者福祉の制度および概要について
14 回	<生活保護> 生活保護制度の概要と課題について
15 回	<地域福祉> 地域福祉の概要と課題について
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
相 談 援 助	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	森合 真一
授 業 概 要	「相談援助（ソーシャルワーク）」は、社会福祉援助の方法（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークなど）に基づいて、クライアント（生活上の困難を抱えている人）の抱えている生活困難に対処するための専門的な援助技術である。本科目では、その基本的知識および技術を講義します。			
授 業 科 目 の 目 的	次の3点で、目指すべき保育士像に近づくことを目的とします。 1. ソーシャルワークを行う観点から保育士の意義を理解することで使命感や倫理観を高めます。 2. ソーシャルワークに関する学習を通して人間力を育みます。 3. ソーシャルワーカーとしての保育実践の基礎を培います。			
学 習 成 果	1. 保育士として必要なソーシャルワークの理論と方法が理解できるようにします。 2. ソーシャルワークの技術を習得できるようにします。			
テ キ ス ト	保育の質を高める相談援助・相談支援/西尾祐吾 監修、立花直樹・安田誠人・波田埜英治 編 /晃洋書房/2015年/2,800円（本体価格）			
参 考 書	相談援助/林邦雄・谷田貝公昭 監修/一藝社/2012年/2,200円（本体価格）			
成 績 評 価 基 準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと。また、講義後に講義内容の復習をしておくこと。			
そ の 他 の 事 項	講義内でレポートを課した場合、そのレポートの評価は平常点に含まれます。			

授業内容進行表

1 回	< 相談援助の概要 > ソーシャルワークの誕生と展開、ソーシャルワークの理論・機能・意義・専門性、ソーシャルワークを行う前に…
2 回	< 相談援助の方法・技術 1 > 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術、ジェネラリスト・ソーシャルワーク
3 回	< 相談援助の方法と技術 2 > ソーシャルワークが必要とされる背景、保育が行われる場とソーシャルワーク
4 回	< 面接技法 > コミュニケーションの本質、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション
5 回	< 相談援助における対象・プロセス > ソーシャルワークの対象、ソーシャルワークの展開過程
6 回	< スーパービジョン > スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態
7 回	< 相談援助における詳説 > 計画・記録・評価、関係機関との連携
8 回	< 相談援助事例演習 > ソーシャルワーク事例を活用したロールプレイ演習
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育相談支援	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保護者への相談支援は、保育者の専門性を生かした大切な業務として位置づけられています。そのため、この科目では、保育相談支援の具体的な内容と方法を学び、実践力を習得します。さらに、保護者の気持ちを受けとめながら、保護者との信頼関係の構築や養育力の向上を目指す支援のあり方について、演習も含めて学んでいきます。科目「相談支援」「家庭支援論」との関連性について考慮しながら学習を進めます。</p>			
授業科目の目的	<p>保護者への支援を保育者の重要な役割として認識し、支援スキルについて学ぶことを目的とします。保護者支援について、内容・方法・技術を具体的に理解し、計画・記録・評価・カンファレンスの実際を知り、保育所だけでなく児童養護・障害児・母子生活支援施設での保育相談支援についても理解を深めます。</p> <p>相談技術においては、カウンセリングの要素が含まれており、各家庭における様々な悩みごとの個人情報の守秘義務等の倫理綱領を遵守することや記録と評価を通してのケースカンファレンスの在り方について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について説明できるようにします。 2. 保育相談支援の基本的スキルが修得できるようにします。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法が論じられるようにします。 4. 保育所やその他の児童福祉施設における保護者支援の実際について述べられるようにします。 			
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 保育相談支援/林邦雄・谷田貝公昭 監修 高玉和子・和田上貴昭 編 森合真一 他著/一藝社 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレール館</p>			
参考書	<p>必要に応じて、プリント・資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>授業態度20%、提出物20%、定期試験を60%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>相談支援においては、人のこころに触れ、人を支え援けるという姿勢が必要です。保育者自身もまた重要な「人的環境」であることを認識し、表情に加えてことば遣いやふるまい等を意識的に整えていくよう心がけてください。家庭や子育てに関するニュースや新聞記事に関心を持ち、自らの力や意識を高めましょう。予習復習にも、しっかり取り組んでください。演習以外にもグループデテスカッションを行います。積極的な取り組みで実践力を高めましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	< 保育相談支援の意義 1 > 保育相談支援とは オリエンテーション(既習内容の理解度のアンケートを含む)
2 回	< 保育相談支援の意義 2 > 保育士の専門性を生かした支援
3 回	< 保育相談支援の実際 1 > 演習(1)
4 回	< 保育相談支援の実際 2 > 演習(2)
5 回	< 子どもの権利 > 子どもの最善の利益
6 回	< 保護者への支援 1 > 保護者とのパートナーシップ
7 回	< 保護者への支援 2 > 特別な対応を要する家庭への支援
8 回	< 保護者への支援 3 > 保護者のエンパワメント
9 回	< 保護者への支援 4 > 信頼関係を基本とした関わり
10 回	< 関係機関との連携 > 社会資源の活用と関係機関
11 回	< 要保護児童の家庭に対する支援 1 > 演習(1)
12 回	< 要保護児童の家庭に対する支援 2 > 演習(2)
13 回	< 保護者支援の実際 1 > 保護者に伝わる保育指導
14 回	< 保護者支援の実際 2 > 保護者支援の方法と技術
15 回	< 保護者支援の実際 3 > 保護者支援の内容
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	茨木 金吾
授業概要	<p>日々の保育に音楽を活かすために必要な基礎的となる知識や技術を学びます。 幼児教育者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように、個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように、基礎力を養います。そのためには音楽理論(基礎知識)の習得が必修条件であり、本授業は、この知識の習得を中心に授業を展開していきます。またグループワークとして、鍵盤楽器と小物の楽器を使ったアンサンブルを試み、グループでの作品作りの意義を考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊びを展開するために必要な基礎的な知識や技術を学び、保育に携わる者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように基礎力を養うことをその学びの目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できます。 2. 基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムに関わることが可能となります。 3. 基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、幼児用楽器を中心にアンサンブルすることによって、展開できるようになります。 4. 保育の表現技術(音楽表現に関する知識や技術)を習得することができます。 			
テキスト	<p>こどもと音楽/茨木金吾著/豊岡短期大学 こどものうた [簡易伴奏曲付] /田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著/圭文社 /2,800円+税</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版]/大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著/すずき出版/2,300円+税 幼稚園教育要領/文部科学省/フレーベル館/100円+税 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/190円+税 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館/120円+税 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館/190円+税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 /249円+税</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(音楽理論)・・・60% 2. グループワーク授業への取り組み(アンサンブル)・・・30% 3. 学習態度、意欲・・・10% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセッション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自、五線ノートとプリント保管用ファイルを用意してください。 2. 時間があれば、楽曲を音読しましょう。 3. 授業外での復習と予習(自主練習、自主学習)を怠らないでください。 4. 授業への積極的な取り組みを期待します。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 幼児のための音楽教育 (音楽教育の目標、幼児教育における音楽の大切な役割と効果、そしてその影響)
2 回	音楽理論1 記譜法の基礎知識 (五線・加線と加間・小節線、音部記号と譜表、音名、音符と休符、拍子、縦線と小節、拍子感の変化)
3 回	音楽理論2 音階 (自然音階、移調法、長音階、短音階、半音階、特殊な音階)
4 回	音楽理論3 調 (調の名称、調号、近親調)
5 回	音楽理論4 音程 (全音と半音、度数、種類、全音階的音程、半音階的音程、単音程と複音程、転回音程、異名同音程、協和音程と不協和音程)
6 回	音楽理論5-1(1) 和音 (三和音、和音記号、主要三和音と副三和音)
7 回	音楽理論5-1(2) 和音 (転回和音、カデンツ、密集和声と開離和声)
8 回	音楽理論5-1(3) 和音 (七の和音、九の和音その他の和音)
9 回	音楽理論6-1(1) コードネーム (三和音の構成)
10 回	音楽理論6-1(2) コードネーム (七の和音の構成、その他よく使用されるコード)
11 回	音楽理論7 記号と標語、音楽形式 (記号と標語、装飾音、装飾音、音楽形式)
12 回	音(楽音、自然音等)と親しむことについて (楽音だけでなく、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験の重要性と保育の環境のあり方)
13 回	幼児用楽器の取り扱い方 (手拍子、膝打ち、足拍子、カスタネット、鈴、大太鼓、小太鼓、タンバリン、トライアングル、シンバルなど、こどもの身近な楽器と、その演奏方法)
14 回	こどもの身近な楽器と、その演奏方法 アンサンブル1 (アンサンブル譜の読み方についての理解と簡単なアンサンブル譜の作成)
15 回	こどもの身近な楽器と、その演奏方法 アンサンブル2 (アンサンブルの発表(グループワーク)) 「こどもと音楽」まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うた	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	田上栄美子・大江美歩子 大谷妃早子・松本裕子
授業概要	<p>これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を生かして、授業を展開します。音楽表現活動（歌う、奏でる、動く、つくる等）を通して、表現する（音楽）楽しさや演奏する喜び等を体験します。主な演奏内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。演奏曲の決定、パート分け、パート練習、演奏会の企画立案などは、みんなで話し合い検討しながらすすめます。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が、豊かな感性を磨くことが子どもの豊かな音楽表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を生かして様々な表現活動に取り組み、豊かな感性を養います。さらに、この活動を通して、表現の楽しさを味わったり、友達とともに演奏する喜びや難しさなどを学びます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に授業に臨む態度、意欲を養うことができます。課題を明確にすることで、授業に対する関心も高まります。 2. 「卒業演奏会」の企画を通して演奏会までの計画立案、計画推進の手順がわかるとともに、創意工夫して練習に取り組むことができるようになります。 3. 自分の役割や立場を理解し、責任もって取り組むことを学べます。 4. 「自分（たち）の感じる（イメージする）音楽表現を発表する。」を目標に、しっかり取り組むことは、大きな自信と喜びにつながります。達成感・成就感、仲間との連帯感など、表現活動を通してたくさんのおもしろいことを味わうことができます。 			
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。			
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。			
成績評価基準	<p>1～3を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等：25% 2. 演奏の創意工夫：25% 3. 演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任もって演奏する等：50% 			
受講の心構えとメッ	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割や受け持ったパートを責任もって行うために、練習は欠かせません。課題意識を持ち、意欲的に練習を進めましょう。 ・受け持ったパートを責任もって演奏することは、音楽表現活動の基本的な技能の向上につながります。 			
その他事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でプリント等を適宜配付します。 ・楽譜等を綴じますので、ファイル（できれば、クリアーファイル）を用意してください。 			

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション（学習の目標、授業内容、学習方法等について） 企画立案（1）合唱（パートを決める）（2）合奏（各楽器の担当を決める）（3）アンサンブル（グループ、演奏曲、各楽器の担当を決める）（4）連弾（演奏するペア、演奏曲を決める）
2 回	合唱曲【A】の練習1（練習課題の確認→パート練習〈階名唱〉→合唱） アンサンブル練習1（練習課題の確認→パート練習→合奏）
3 回	合唱曲【A】の練習2（練習課題の確認→パート練習〈階名唱～歌詞唱〉→合唱） アンサンブル練習2（練習課題の確認→パート→合奏）
4 回	合唱曲【A】の練習3（練習課題の確認→合唱→パート→合唱） アンサンブル練習3（練習課題の確認→合奏→アンサンブル発表1回目）
5 回	合唱曲【A】の練習4（練習課題の確認→合唱） アンサンブル練習4（練習課題の確認→合奏）
6 回	アンサンブル発表（2回目） 合奏曲【A】の練習1（練習課題の確認→パート→合奏）
7 回	ピアノ（連弾）練習1 アンサンブル練習5
8 回	合唱曲【B】の練習1（練習課題の確認→パート練習〈階名唱〉→合唱） 合奏曲【A】の練習2（練習課題の確認→パート→合奏）
9 回	合唱曲【B】の練習2（練習課題の確認→パート練習〈階名唱～歌詞唱〉→合唱） 合奏【A】の練習3（練習課題の確認→合奏）
10 回	合唱曲【B】の練習3（練習課題の確認→合唱→パート→合唱） 合奏曲【B】の練習1（練習課題の確認→パート→合奏）
11 回	ピアノ（連弾）練習2 アンサンブル練習6
12 回	合唱曲【B】の練習4（練習課題の確認→合唱） 合奏曲【B】の練習2（練習課題の確認→パート→合奏）
13 回	合奏曲【B】の練習3（練習課題の確認→パート→合奏）
14 回	ピアノ（連弾）の発表
15 回	合唱、アンサンブル、合奏の発表 活動のふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うたⅡ	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	田上栄美子・大江美歩子 大谷妃早子・松本裕子
授業概要	<p>これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を生かして、授業を展開します。音楽表現活動（歌う、奏でる、動く、つくる等）を通して、表現する楽しさや演奏する喜び等を体験します。主な演奏内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。演奏曲の決定、パート分け、パート練習、演奏会の企画立案などはみんなで話し合い検討しながら進めます。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が、豊かな感性を磨くことが子どもの豊かな表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を生かして様々な表現活動に取り組み、豊かな感性を養います。さらに、この活動を通して、表現の楽しさを味わったり、友達とともに演奏する喜びや楽しさなどを学びます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に練習に、授業に臨む態度、意欲を養うことができます。課題を明確にすることで、授業に対する関心を高めることができるようになります。 2. 「卒業演奏会」の企画を通して演奏会までの計画立案、計画推進の手順がわかるとともに、創意工夫して練習に取り組むことができるようになります。 3. 自分の役割や立場を理解し、責任をもって取り組むことができるようになります。 4. 「自分（たち）の感じる（イメージする）音楽表現を発表する。」を目標に、しっかり取り組むことは、大きな自信と喜びにつながります。達成感・成就感、仲間との連帯感など、表現活動を通してたくさんのことを味わうことができるようになります。 			
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。			
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。			
成績評価基準	<p>1～3を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等：25% 2. 演奏の創意工夫：25% 3. 演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任をもって演奏する等：50% 			
受講の心構えとセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割や受け持ったパートを責任もって行うために、練習は欠かせません。課題意識を持ち、意欲的に練習を進めましょう。 ・受け持ったパートを責任もって演奏することは、音楽表現活動の基本的な技能の向上につながります。 			
その他の事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でプリント等を適宜配付します。 ・楽譜を綴じますので、ファイル（できればクリアファイルA4サイズ）を用意してください。 			

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) アンサンブル練習 1 (練習課題の確認→合奏) ピアノ (連弾) 練習 1
2 回	合唱曲【A・B】の練習 1 (練習課題の確認→パート練習〈階名唱→歌詞唱〉→合唱)
3 回	合唱曲【A・B】の練習 2 (練習課題の確認→パート練習→合唱) 成果発表 (一人ずつ)
4 回	合奏曲【A】の練習 1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
5 回	合奏曲【A】の練習 2 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
6 回	アンサンブル練習 2 (練習課題の確認→合奏) と成果発表 ピアノ (連弾) 練習 2
7 回	総合練習 1 (合唱)
8 回	総合練習 2 (合唱)
9 回	総合練習 3 (合唱、合奏)
10 回	ピアノ (連弾) 練習 3
11 回	リハーサル 1 (ピアノ〈連弾〉、合唱)
12 回	リハーサル 2 (アンサンブル、合奏)
13 回	リハーサル 3 (プログラム前半の通し練習)
14 回	リハーサル 4 (プログラム後半の通し練習)
15 回	成果発表 (合唱、アンサンブル、合奏) 活動のまとめとふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形 I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	<p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習します。それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、合わせて用具や描画材について体験的に理解します。さらに、イメージの広がりから、また、素材の特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れながら、壁面装飾を想定した製作をしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。 2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと造形 I / 岩田健一郎・船井武彦/豊岡短期大学 こどもと造形表現 I / 船井武彦/豊岡短期大学</p>			
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 その他の参考書は授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p> <p>授業時間内で仕上がらない課題は授業時間外で製作してください。</p>			
その他	<p>絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。</p>			

授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション＞ 授業の目的と研究の観点について学ぶ ～子どもの造形活動と製作体験の意義～ 子どもの造形表現を鑑賞し理解する
2 回	＜形態と色彩の原理について学ぶ＞ ～形・色・構成美の要素～ ＜形態と色彩について学ぶ1＞色調について学ぶ（1）
3 回	＜形態と色彩について学ぶ2＞色調について学ぶ（2）
4 回	＜形態と色彩について学ぶ3＞色の感情について学ぶ（1）
5 回	＜形態と色彩について学ぶ4＞色の感情について学ぶ（2）
6 回	＜形態と色彩について学ぶ5＞色の感情について学ぶ（3）
7 回	＜形態と色彩について学ぶ6＞色の感情について学ぶ（4）
8 回	＜形態・色彩等についての小テスト・振り返り＞ ＜造形表現を支える環境づくりについて学ぶ＞ ＜子どもの発達と表現手法・材料用具について学ぶ＞
9 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ1＞描画材料と表現研究
10 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ2＞版画手法による製作（1）
11 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ2＞版画手法による製作（2）
12 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ3＞コラージュによる製作（1）
13 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ3＞コラージュによる製作（2）
14 回	＜えがく表現と表現手法について学ぶ3＞コラージュによる製作（3）
15 回	＜振り返り・まとめ＞
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅱ	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、紙と粘土によるつくる活動に主眼をおきます。それらの基礎知識をもとにして、材料や用具の取り扱いと、つくる・えがく活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。乳幼児の造形活動の教材やそれら使って活動を展開、援助するための知識や技能について、製作と振り返りを通して学習します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、「こどもと造形Ⅰ」で学習したことを踏まえ、保育の中で取り扱う新たな教材とそれらに必要な知識や技術の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を深めることができるようにします。 2. 製作する手法等に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して、造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、新たに製作体験をする実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術の関係づけができるようにします。 			
テキスト	こどもと造形Ⅰ/岩田健一郎・船井武彦/豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ/船井武彦/豊岡短期大学			
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 その他の参考書は授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。			
受講の心構えとメッセージ	造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく制作してください。 また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> <造形活動の素材と子どもの造形活動（遊び・手法）について考える> <紙による製作研究 紙の特性、種類、加工法について> <紙による製作1> 花（1）</p>
2 回	<p><紙による製作1> 花（2） <紙による製作2> ばたばた蝶々</p>
3 回	<p><紙による製作3> 動くおもちゃ（紙椀） <紙による製作4> 紙コップ</p>
4 回	<p><粘土による製作研究 粘土の特性、種類、加工法について> <粘土による製作1> 人形（1） 構想と成形</p>
5 回	<p><粘土による製作2> 人形（2） 成形</p>
6 回	<p><粘土による製作3> 人形（3） 成形</p>
7 回	<p><粘土による製作4> 人形（4） 彩色</p>
8 回	<p><子どもの造形表現活動についてのまとめと今後の課題></p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育 I	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	伊藤 宏俊
授業概要	<p>子どもたちにとっての運動遊びの必要性を発育発達の面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。</p> <p>グループごとに色々な運動遊びを考案し、発表をとおして指導法を学ぶとともに保育者として必要な運動遊びを習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずに、子どもたちが主体的に取り組み、多くの動きが体験できるような環境構成ができることが大切です。この演習で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じて子どもたちに指導ができ、子どもの発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（グループ遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び）などを考え、模擬授業を通して、グループで考案した運動遊びの指導ができるようにします。 2. 望ましい幼児の活動や運動遊びを引き出すために、遊具の安全性についての認識を深め、子どもたちが安全に遊べる指導や環境づくりができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育 I / 長谷川定宣 / 豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技20%、定期試験40%により総合的に評価します。</p> <p>その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。 			
受講の心構えとメッセージ	<p>この演習は参加し、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは、図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	<p>演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者（保育士）の心構えを身につけましょう。</p>			

授業内容進行表

1 回	ガイダンス 幼児の運動あそびの必要性について考え、その環境作りや言葉かけを学ぶ
2 回	こどもの発育と遊びについて考える 1歳から5歳児までの「歩・走・跳・押・引・転・登・投」の動きをグループで考え発表しよう
3 回	運動遊びを考える1 1歳から5歳児までのグループでの遊びを考え・発表しよう
4 回	運動遊びを考える2 1歳から5歳児までの競争遊びを考え・発表しよう
5 回	操作性遊具を使った遊びを考える1 ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動あそびを考える
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える2 ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動あそびを考え、発表・体験しよう
7 回	身近な素材を使った遊びを考える1 新聞紙を使って遊ぼう
8 回	身近な素材を使った遊びを考える2 新聞紙を使った遊びを発表しよう
9 回	こどもの体操を考える1 リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう
10 回	こどもの体操を考える2 リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう
11 回	器具を使った遊びを考える1 マット運動あそびの基本を学ぼう
12 回	器具を使った遊びを考える2 マット・跳び箱運動遊びの基本を学ぼう
13 回	器具を使った遊びを考える3 マット・跳び箱を使った運動遊びの基本を学ぼう
14 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ 固定遊具の遊び方と安全点検を理解しよう
15 回	ふり返りとまとめ グループ実践発表会（運動遊び）
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	伊藤 宏俊
授業概要	「こどもと体育Ⅰ」の学習を踏まえ、運動あそびを考え発表・体験します。固定遊具の鉄棒遊びや逆上がりなどについて研究していきます。また、鬼ごっこ遊びについて研究を深めるなど、子どもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学びます。			
授業科目の目的	<p>子どもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開されていきます。そして、皆が楽しくなければなりません。決まりやルールも、そのグループに集まった子どもたちの能力にあったものと考えていきます。</p> <p>保育者は子どもたちに運動遊びを指導する際、訓練的にならず、子どもたちが主体的に取り組み、多くの動きが体験ができるような環境を設定していきます。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じて子どもたちに提供できることが求められます。この演習は発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（野外での個人・対人・集団遊び、鉄棒遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び）を、考える力を養った上で、指導ができるようにします。 2. 運動遊びの指導法や必要な知識の習得ができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育Ⅰ/長谷川定宣/豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技10%、定期試験50%により総合的に評価します。</p> <p>その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識が習得でき理解ができていますか。 			
受講の心構えとセーajt	この演習は参加し、実践演習を通した授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは、図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	ガイダンス テーマ：「生きる力の基礎を培う運動遊び」 幼児のあそびへのワクワク感に思いをはせ、成長過程での運動あそびの大切さを考える
2 回	自然（野外）での幼児の遊びを考える グループでの遊びを考え発表し体験しよう
3 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 1
4 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 2 実践とDVDで研究
5 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 3
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える 1 まねっこ体操からリズム表現運動へ 1
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える 2 まねっこ体操からリズム表現運動へ 2
8 回	大型遊具を使った遊びを考える 1 まねっこ体操からリズム表現運動へ 3
9 回	大型遊具を使った遊びを考える 2 まねっこ体操からリズム表現運動へ 4
10 回	サーキット遊びを考える 1 マット・跳び箱・平均台を使ってサーキット運動あそびを考える
11 回	サーキット遊びを考える 2 絵本の物語をサーキット遊びへ展開させる
12 回	鬼ごっこ遊びを研究する 1 これまで体験したことのない鬼ごっこ遊びを研究する
13 回	鬼ごっこ遊びを研究する 2 これまでに体験したことのない鬼ごっこ遊びの研究を発表し体験する
14 回	伝承遊びを研究する 書物や高齢者から昔の遊びを知る
15 回	ふり返りとまとめ 「生きる力の基礎を培う運動遊びの工夫」
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文学	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	小西 律
授業概要	<p>児童文学の作品を題材として、作者がこどもに託すメッセージ、先人の望みなどを受け取り、こどもの生活経験と照らし合わせながら思考し、作品分析を行います。</p> <p>また、小学校の国語の教科書に掲載されている作品も取り上げます。</p> <p>「赤い鳥」から生まれた童謡、それまで学校教育の中での教材としての唱歌も取り上げ分析します。</p>			
授業科目の目的	<p>「こどものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる(西本鶏介)」ものであると言われます。生涯にわたりその人の人間性の基礎を培うこどもの文学についての理解を深めるとともに、こどもにとり成長の糧となりうる最上の1冊を提示できる選択眼を養うことを目的とします。童謡、唱歌が生まれた背景についても考察し、その世代のこどもの生活を知り、理解することから歌い継がれて来たことの意味を知ることが目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの文化の先駆的役割を担った「赤い鳥」の主張を理解し、その中の文学について現在に受け継がれている意味を理解、認識した上で、今日の児童文学について説明ができるようにします。 2. 具体的な作品を探求することから、こどもを取り巻く生活、環境、社会問題などを認識し、分析ができ、それらを踏まえ作品論を仕上げるができるようにします。 3. 作家たちの多様なメッセージからこどもの現在及び未来に向けた生き方、希望、可能性に思いを馳せ、作品の選択眼を養うことができるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>語ってよ子守歌のように／禅定生世／エルビス社／1,500円 世界でいちばん愛される絵本たち／人気作家30人のインタビュー集／白泉社／2007年／本体1600円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験30%、レポート・提出物・発表20%、授業・課題に取り組む姿勢20%、作品論30%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「人生の真実は大人が教えるものでなく、こどもがみずからの力でつかみとっていくものです。その力をあたえてくれるのが文学の価値」と西本鶏介は言います。授業は、講義と映像の視聴、レポート作成、意見発表などで進めます。幼い頃読んだ懐かしい作品も出て来ます。作者が託したメッセージを受け取り、大いに悩み、考え、感動してほしいと思っています。</p> <p>最終的には1作品を選び、その作品論を完成させるという大きな目標があります。深く読み込まなければ作品論はまとめることは叶いませんが、やり遂げた後にはきっと大きな喜びと自信が得られるでしょう。また、学習を深めるため、予習・復習を課題として課してゆきますので取り組みを怠ることのないようにしてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<こどもと文学 1> 日本と世界の児童文学 「赤い鳥」について、「赤い鳥」がもたらしたもの
2 回	<こどもに何を語り伝えるか> こどもとは リンドグレーン、ヤンソン、角野栄子他 児童文学作家達からのメッセージ 児童文学地図作成
3 回	<こどもと家族 1> ワイルダーの生涯と作品
4 回	<こどもと家族 2> ワイルダー レポート作成
5 回	<こどもの自立 1> バーネットの生涯と作品
6 回	<こどもの自立 2> バーネット レポート作成
7 回	<現代社会とこども 1> エンデの生涯と作品
8 回	<現代社会とこども 2> エンデ レポート作成
9 回	<絵本作家からのメッセージ 1> ディック・ブルーナー 人と仕事
10 回	<絵本作家からのメッセージ 2> ディックブルーナー 調査 レポート作成
11 回	<絵本作家からのメッセージ 3> ディック・ブルーナー 意見交換
12 回	<教科書に取り上げられている作品 1> 幼児教育と小学校との連携の中での児童文学 概論、調査
13 回	<教科書に取り上げられている作品 2> 意見交換
14 回	<こどもと文学 2> こどもに与える1冊の絵本・物語を考える
15 回	<こどもと文学 3> こどもに与える1冊の絵本・物語を考える 私のおすすめの1冊 発表 <まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
家庭支援論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保育者は、「保育」とともに、在園児の保護者への支援を行う専門職です。さらに、地域の子育て家庭への支援も大切な業務となっています。近年、社会の変化に伴い家庭や子育ての課題は多様化・複雑化しています。その実態を理解した上で、子育て家庭への支援体制と、様々なニーズに応じた専門機関との連携について学んでいきます。事例研究等によって、具体的な家庭支援の方法と技術についても習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもが安心して生活し、心身を健全に育むためには、家庭の安定した状態が必要であるという認識を基礎とし、今日の家庭・家族が抱える問題について考察します。さらに保育者に求められている保護者・家庭への支援について、具体的に施策や方法について理解することを目的とします。</p>			
学習成果	<p>保育者に求められる子育て支援・保護者支援という役割や機能（保育相談支援と一部重なる部分がある）について理解し、それらに関する専門的な知識・技術・倫理を身につけます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解できるようにします。 2. 子育て家庭を取り巻く社会状況等について論じることができるようにします。 3. 子育て家庭の支援体制について理解し説明できるようにします。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について、その役割・方法について説明できるようにします。 			
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 家庭支援論／林 邦雄、谷田貝公昭 監修、中野由美子 編著 森合真一他執筆/一藝社 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>必要に応じてプリント・資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>授業態度20%、提出物20%、定期試験を60%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「子育て」「子育て」が難しくなったと言われますが、その原因や対応について考えていきます。その中で、保育者の役割の大切さについて理解を深めましょう。また保育の背景となる社会の状況や支援施策は、刻々と変化しています。常日頃から新聞やニュースに目を通して、自ら学び取る姿勢を持ちましょう。予習・復習が欠かせません。取り組みに期待しています。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	< オリエンテーション 家庭の意義と機能 1 > 子どもが育つ場としての家庭・家族
2 回	< 家庭の意義と機能 2 > 子育て環境の変化と家庭支援の必要性
3 回	< 家庭の意義と機能 3 > 現代家族の人間関係と子育て
4 回	< 社会と子育て 1 > 地域社会の変容と家庭支援の必要性
5 回	< 社会と子育て 2 > 男女が共同で働き子育てをする社会
6 回	< 家庭支援 1 > 保育の場における家庭支援
7 回	< 家庭支援 2 > 家庭との緊密な連携およびパートナーシップ
8 回	< 家庭支援 3 > 保育所・幼稚園における支援方法の実際
9 回	< 子育て支援 1 > 子育て支援制度の概要
10 回	< 子育て支援 2 > 子育て支援における関係機関や人との連携
11 回	< 子育て支援 2 > 在宅子育て家庭への支援
12 回	< 多様な支援の展開 1 > 子育ての負担・不安を抱えた保護者への支援
13 回	< 多様な支援の展開 2 > 発達が気になる子どもと保護者への支援
14 回	< 多様な支援の展開 3 > ネグレクト（養育拒否）や不適切な養育家庭に対する支援
15 回	< これからの子育て支援 > 子育て支援サービスの課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健 I	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	谷岡 まさ子
授業概要	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。 また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習していきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解します。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解します。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解します。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学びます。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようにします。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できるようにします。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できるようにします。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解し、説明できるようにします。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解し、説明できるようにします。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解し、論じることができるようになります。 			
テキスト	こどもの保健 I / 新川加奈子 / 豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしい。 ・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。 ・自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。 ・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	小児保健の基本
2 回	小児の健康指標と水準
3 回	小児の発育1 発育と発達
4 回	小児の発育2 身体発育の問題点
5 回	小児の生理機能1 中枢神経 水分代謝
6 回	小児の生理機能2 免疫機能 感覚機能
7 回	小児の運動機能
8 回	小児の精神機能
9 回	小児の精神保健 先天異常
10 回	家庭看護
11 回	予防接種1 予防接種とは
12 回	予防接種2 ワクチンとは
13 回	事故と安全対策1 こどもの事故の特徴
14 回	事故と安全対策2 救急処置の基本対応
15 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における小児の健康
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅱ	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	谷岡 まさ子
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。</p> <p>また、こどものおかれている健康問題や地域保健活動を理解し、保護者支援についても学習していきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価を行うことができます。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えます。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に学び、知識を獲得します。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解します。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画立案及び評価ができるようにします。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できるようにします。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的な理解ができるようにします。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できるようにします。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解し、論じることができるようにします。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解できるようにします。 			
テキスト	こどもの保健Ⅱ/新川加奈子/豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康なこどもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしいと思っています。 ・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしいと思っています。 ・自分のこれからの育児や仕事に役立てる意識を持ち、その方向で取り組んでほしいと思っています。 ・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参し、予習・復習に取り組んでください。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	日常に見られる症状1 こどもの健康状態の観察 下痢
2 回	日常に見られる症状2 頭痛
3 回	小児感染症1 感染症の基礎知識 等
4 回	小児感染症2 発疹性疾患
5 回	小児感染症3 食中毒
6 回	小児感染症4 呼吸器疾患
7 回	小児感染症5 保育所における感染症対策 血液・リンパ節疾患
8 回	小児感染症6 神経系疾患 中耳炎
9 回	アレルギー疾患
10 回	集団の保健1 保健活動の基本方針
11 回	集団の保健2 施設の特性と保健
12 回	母子保健行政1 母子保健行政の組織
13 回	母子保健行政2 母子保健サービス
14 回	母子保健行政3 母子保健サービス 健やか親子2 1
15 回	こどもの健康と生活
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅲ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	原田 玻璃美
授業概要	<p>初めに、「子どもを思いやる」とはどういうことなのかを考え、「子どもを育む力」を身につけるためにはなにができないのかを知る。授業は講義と実技演習で実践に役立つ、知識と技術を習得できるように進めます。</p> <p>発達途上にある乳幼児の特徴を学び、発達の評価をするための身体計測の技術を演習します。安全を担保するための実技に重点を置き進めていきます。生活を守るための養護技術にも習熟するよう取り組みます。</p> <p>保育環境の安全を守り、病気や事故時の対応ができるよう応急手当や、救急処置ができるよう演習します。授業はグループワークを取り入れ、学生双方の学びと気づきを深めていきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を行う上で必要な養護の技術と、子どもの成長・発達の状態、健康状態を正しく把握するための方法と技術を演習から学びます。 2. 健康と安全に関する保健活動について理解し、関係者とのコミュニケーションがとれるよう知識を獲得します。 3. 病気の早期発見や事故の予防、対応を正しく行えるよう応用能力と技術を演習し、また、家族との連携や記録の必要性を理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育施設での保健活動の計画立案ができるようにします。 2. 日常生活に必要な養護技術が安全におこなえるようにします。 3. 発育指標となる身体計測の実践と評価ができるようにします。 4. 健康上の問題となる情報を把握し、情報の判断ができるようにします。 5. 子どもの疾病について予防や応急処置と急変時の対応と報告、連絡、記録ができるようにします。 6. 安全を脅かすリスクが把握できるようします。 7. 保育者間の連携を取る力を養い、母親への支援について自分の意見を持つことができるようにします。 			
テキスト	改定 小児保健実習/佐藤益子編著/みなみ書房/2,200円			
参考書	保育所保育指針及び解説書/厚生労働省/フレーバル館			
成績評価基準	<p>事前学習によるグループへの貢献度 10%</p> <p>グループワークへの参加度 10%</p> <p>実技テスト 20% 定期テスト60%</p> <p>により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者として重要な科目です。事前学習をしっかりと主体的参加をしてください。実技演習は何回でも繰り返し、自信が持てるようにしてください。グループワークでは他人の意見をよく聞き、まとめと発表の力をつけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 小児保健を学ぶ意義・保育・養護する専門職業人として必要な態度と技術
2 回	<対象の理解 1> 母子健康手帳で知る 成長と発達機能的発達と評価 保健活動と計画立案
3 回	<対象の理解 2> 身体計測と発育の評価：体重・身長・胸囲など
4 回	<実技演習> 演習：体重測定の方法・身長測定の方法・胸囲測定の方法・頭囲測定の方法
5 回	<観察技術 3> バイタルサインの測定と評価
6 回	<養護技術 1> 抱っこ・おんぶ・衣服の着脱 実技テスト：乳児のだっこ
7 回	<養護技術 2> 口腔清潔と排泄 実技テスト：おむつ交換
8 回	<症状に対する看護 1> 発熱 咳・下痢・嘔吐
9 回	<病気への対応と予防> 感染症・食中毒・手洗い・マスク
10 回	<子どもの事故と対策 1> すり傷・切り傷・刺し傷・異物・鼻血・やけど
11 回	<子どもの事故と対応 2> 熱中症・頭を打つ・つき指・捻挫・脱臼
12 回	<子どもの事故と対応 3> 異物の誤飲・意識障害・一次救命処置
13 回	<応急処置> 緊急性のある症状
14 回	<事故防止と安全教育> 発達段階と事故・事故の予防
15 回	<地域との連携協働> 障害をもった子どもの支援
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保 育 原 理	1 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (2 単 位)	岡 本 妙 子
授 業 概 要	「保育とは何か」という基礎から保育の意義を理解し、実践につながる保育の内容や方法について学びます。そのためには、保育の歴史的背景や保育をとりまく社会状況、現代の家庭の実態を具体的に理解することが必要です。保育所保育指針における保育の基本を理解し、計画を立て、子どもの生きる力培う保育の展開について学んでいきます。			
授 業 科 目 の 目 的	現代の子どもをめぐる環境をふまえながら、保育の現状と課題について具体的に理解します。保育者として、子どもや家庭と向き合い、乳幼児の特性に合った保育を実践する基礎的な力を総合的に培うことを目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義・意味について考え、述べる力を身につけ、保育実践と結びつけることができるようになります。 2. 保育の歴史と内容の変遷について理解し、認識できるようになります。 3. 保育学の基礎知識・理論を理解し、習得できるようになります。 4. 保育の現状と課題を理解し、論じることができるようになります。 5. 保育内容・方法と保育計画など、保育園等における保育活動の実際について説明することができるようになります。 			
テ キ ス ト	保育者養成シリーズ 保育原理/林 邦雄/一藝社 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館			
参 考 書	必要に応じて、プリント・資料を配付します。			
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、提出課題20%、定期試験60%で総合的に評価します。			
メ ッ ク セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	保育者は乳幼児や家庭を支える貴重な役割を担っています。保育原理は、保育者としての資質を身につける基礎となりますので、確実に学習内容を習得しましょう。子どもを思うあたたかい心も大切です。また、日本の保育の制度は大きな転換期にあります。新聞やニュースを通して、社会の中で求められる保育のニーズについて自ら学ぶ姿勢を持ち、考察し、積極的に学んでいきましょう。			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション ＜「保育」とは何か＞ 保育の理念
2 回	＜ 保育の思想・歴史を学ぶ 1 ＞ 西洋における保育の歴史
3 回	＜ 保育の思想・歴史を学ぶ 2 ＞ 日本における保育の歴史
4 回	＜ 保育の場 ＞ 家庭保育、保育所保育、その他の施設保育
5 回	＜ 保育の内容の原理 1 ＞ 保育所保育指針と施設保育
6 回	＜ 保育の内容の原理 2 ＞ 発達過程に応じた保育
7 回	＜ 保育の内容の原理 3 ＞ 環境を通して行う保育
8 回	＜ 保育者に求められているもの 1 ＞ 保護者との緊密な連携
9 回	＜ 保育者に求められているもの 2 ＞ 保育者の専門性の向上
10 回	＜ 保育の実践の原理 1 ＞ 保育のねらいと内容
11 回	＜ 保育の実践の原理 2 ＞ 生きる力の基礎を培う保育
12 回	＜ 保育の実践の原理 3 ＞ 生活と遊びを通しての保育
13 回	＜ 保育の実践の原理 4 ＞ 保育における個と集団
14 回	＜ 保育の実践の原理 5 ＞ 保育の計画と評価
15 回	＜ 日本の保育のこれから ＞ 現状から見える課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	安達 美穂
授業概要	<p>社会的養護について理解を深め、その動向および課題に触れ、類型別施設養護の意義と、その処遇展開についての基礎的知識を理解する中で、養護理論や実践および児童の権利擁護などについて考察していきます。</p> <p>また、新しい社会的養護の考え方を理解し、養護を必要とする子どもや特別な配慮を必要とする子どもについて、施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、保護者への援助について学び、インケア、リービングケア、アフターケアの実践を習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会的養護をめぐる問題や理念や動向を基本に捉えながら、全ての子ども家庭を視野に入れた「新たな社会的養育システム」の構築に向けた制度のあり方を知るとともに、児童の人権を踏まえた保育や自立支援の在り方を理解することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解します。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護と自立支援について理解します。 3. 社会的養護における施設養護の体系、処遇展開を理解します。 4. 社会的養護施設で勤務する保育士の専門性および地域社会との関連性を理解します。 5. 社会的養護の現状と課題について認識します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的意義やその歴史の変遷を、児童家庭福祉政策や時代のニーズと関連づけて考えることができますようにします。 2. 児童家庭福祉との互換性と相違点についても理解し、分類することもできます。社会的養護における児童の権利の擁護を実践することができますようにします。 3. 社会的養護の仕組みと実施体系が理解できるようにします。 4. 施設養護における社会福祉援助技術について理解ができ、保育士としての実践につなげることができるようにします。 5. 社会的養護の現状と課題が理解できるようにします。 			
テキスト	<p>保育と社会的養護原理/大竹 智・山田 利子 編集/みらい書房</p> <p>原則として、授業ごとに内容に添った資料を配付します。</p>			
参考書	<p>保育と児童家庭福祉/櫻井 奈津子 編集/みらい書房</p> <p>社会福祉小六法他</p> <p>社会的養護の現状について/厚生労働省編</p> <p>保育所保育指針解説書/厚生労働省編/フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を50%、小テスト10%、授業ごとの演習問題20%、社会的養護への関心・受講態度等20%（講義中の態度と意欲も加味します。）により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・資料とテキスト、参考書を中心に演習を進めるので、指定されたものを持参してください。 ・専門用語や援助技術に関してわからない項目について、各種資料や参考書を基にして各自調べておきましょう。 ・授業後には配付資料やワークシート等をファイリングし、事後学習に活用してください。 ・授業で指示した演習課題を評価の対象としますので、期限を守って提出してください。 <p>*毎時間ごとの演習問題については、原則として、授業終了後に全て解答し提出することとします。また、提出できない場合は、次回の授業までに完成させて提出してください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	授業内容などについてのガイダンス 社会的養護とは何か 社会的養護の理念と基本原理 社会的養護と保育士の視点
2 回	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 家庭的養護と施設養護、児童養護問題の発生と特徴
3 回	社会的養護の歩み 日本や欧米諸国における社会的養護の歴史的変遷と現在の状況
4 回	子どもの権利擁護 被措置児童などの虐待防止 基本的人権と子どもの権利、権利擁護と専門職の倫理
5 回	社会的養護にかかわる法令の理解 子どもの権利擁護関連法規、障がいのある子どもの福祉関連法規、児童家庭福祉施設の設備基準
6 回	社会的養護の実施体制と仕組みの理解 子どもと家庭を取り巻く状況、環境
7 回	施設養護の特質と基本原則
8 回	施設養護の実際1（児童養護系施設） 日常生活支援、治療的支援 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
9 回	施設養護の実際2（障がい児系施設） 児童福祉法及び障害者総合支援法の主な改正内容、児童発達支援センター
10 回	施設養護の実際 情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設
11 回	里親養育の基本原則と実際 里親制度、養子縁組制度、ファミリーホーム
12 回	社会的養護にかかわる専門職・専門機関 専門職の役割と求められる倫理、専門機関・専門職・関連機関との連携
13 回	社会的養護とソーシャルワーク
14 回	施設の運営管理 社会的養護と地域福祉 社会的養護のまとめ1
15 回	「マネジメント」という視点 自立の支援、家族の支援、自己実現 社会的養護のまとめ2
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
精神保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。</p> <p>とくに、よく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、学生の基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか、確認しながら授業を展開したいと思っています。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識について学び取っていきます。</p> <p>精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなっていきます。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて理解できるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を説明することができるようにします。 2. 子どもの精神機能の発達と保健について知識を獲得することができるようにします。 3. 精神疾患とその予防・対応の視点を持ち、実践に応用することができるようにします。 4. 養育者への援助と対応について、イメージを持ち技術を獲得することができるようにします。 			
テキスト	随時配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
メッセージ	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく程度の差はあっても、誰もが抱える可能性があるものと言えます。また、自分自身は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になっていきます。ぜひとも、授業に真摯な姿勢で向き合い、子どもたちの精神保健だけでなく、養育者や周囲の人々の精神保健についても幅広く学びを深めていくことを期待しています。残念ながら、こころの健康にかかわる問題は、誤解した理解が多く、それにより人を傷つけてしまうこともあります。科学的な根拠に基づく知識を身につけられるように、予習・復習に取り組む真摯な姿勢を徹底し、さらに、こころの健康問題と、どのように向き合ってほしいと考えます。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・精神保健とは1> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは2> こころの健康とはなにか / 子ども達のメンタルヘルスと教育現場の取り組み
3 回	<精神保健とは3> こころの健康とストレス
4 回	<精神保健の基礎1> 生理学的背景・要因（脳・神経系の仕組みと機能）
5 回	<精神保健の基礎2> 心理社会的な背景・要因
6 回	<精神保健の基礎3> 精神症状を読み解く / 精神症状の6つのグループ
7 回	<発達と精神保健1> 胎児期・乳児期、幼児期・児童期の発達と精神保健
8 回	<こころの問題1> 基本となる10の疾患（1）
9 回	<こころの問題2> 基本となる10の疾患（2）
10 回	<こころの問題3>子どもの頃から現れやすい問題 神経性習癖 / 分離不安
11 回	<こころの問題4> うつ症状・摂食障がい（子どもと大人の同じところと違うところ）
12 回	<こころの問題5> 強迫性障がい・睡眠障がい
13 回	<精神保健活動1> 母子の精神保健：子育て支援とこころの健康づくり
14 回	<精神保健活動2> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
15 回	<精神保健活動3> 精神保健活動における保育者の役割
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・通年	講義	60時間 (2単位)	岡崎 典子
授業概要	現場の事例や演習を交え、自らが自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業にしていきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて、理解します。 2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 五大栄養素の栄養生理について理解することができるようにします。 2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し作成することができるようにします。 3. 小児の栄養生理について理解することができるようにします。 4. 母乳の意義について理解することができるようにします。 5. 離乳の意義・実際について理解し、料理作業に活かす力を養うことができるようにします。 6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かす力を養うことができるようにします。 7. 学童期・思春期の栄養意義について理解することができるようにします。 8. 集団給食と献立について理解することができるようにします。 9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解することができるようにします。 10. 障害を持つ子どもの特徴と食の対応について理解することができるようにします。 11. 食育の重要性を理解し、積極的に進められる力をつけることができるようにします。 			
テキスト	こどもの食と栄養演習／小川雄二編著／建帛社／2011年 新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM)付／新食品成分表編集委員会／東京法令出版			
参考書				
成績評価基準	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験55%、提出物25%、授業態度20%とする。			
受講の心構えとセー	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施行され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。予習・復習にも取り組み学びを深めてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<栄養素・生理・代謝1> 炭水化物の栄養生理代謝	16 回	<学童・思春期の栄養> 学童期と思春期の生理と食生活の実際
2 回	<栄養素・生理・代謝2> 脂質・タンパク質の栄養生理代謝	17 回	<演習 幼児期の食事> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
3 回	<栄養素・生理・代謝3> 水とミネラルの働き・ビタミンの働き	18 回	<演習 幼児期の食事> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
4 回	<栄養摂取基準> 栄養摂取基準を理解し使えるようになる	19 回	<給食 理論> 給食の目的・あり方
5 回	<食品と食生活の基礎知識> 食品の特性を理解するとともに食生活の基礎的な考え方を深める	20 回	<障害をもつこどもの食事> 障害の特徴と食生活の具体対応
6 回	<献立作成1> 献立作成演習	21 回	<小児の健康をめぐる問題1> アレルギー・感染症などの食事対応と考え方
7 回	<献立作成2> 献立作成演習	22 回	<小児の健康をめぐる問題2> 若年者に多い生活習慣病の原因と食事対応
8 回	<小児の栄養> 小児をめぐる食生活の基礎知識と現代社会での問題点	23 回	<食育の基本と内容1> 食育基本法・保育所食事指針等
9 回	<小児の栄養生理1> 食欲の仕組み	24 回	<食育の基本と内容2> 食育における養護と教育・保護者支援
10 回	<小児の栄養生理2> 味覚の発達と嗜好の形成	25 回	<食育の実際> 食育計画と評価
11 回	<授乳期の栄養> 母乳栄養の意義と実際	26 回	<食育計画の作成 演習> 保育所における食育年間指導計画を作成する
12 回	<離乳期の栄養> 離乳の意義と離乳食の実際	27 回	<食育演習1> 給食だよりなど食育媒体の作成
13 回	<幼児期の栄養> 幼児期の生理と食生活の実際	28 回	<食育演習2> 給食だよりなど食育媒体の作成
14 回	<演習 離乳期の食事1> 調乳および離乳食の調理実習	29 回	<食育のための環境> 地産地消の意義と実践・栽培の実践
15 回	<演習 離乳期の食事2> 調乳および離乳食の調理実習	30 回	<食をめぐる問題とこれからの課題> 地球環境・食料自給など
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
障 害 児 保 育	1 年 ・ 後 期	演 習	30時間 (2 単 位)	岡 本 妙 子
授 業 概 要	<p>近年、保育の現場では、発達への支援を必要とする子どもたちに対応する力が求められています。保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要です。発達の遅れや障害の実態は、個々のケースによって多様です。それぞれの障害について学んだことを基礎として、応用力を持って1人ひとりに対応していく力を習得していきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>障害児保育を支える理念や歴史の変遷を踏まえ、発達の遅れや障害のある子どもに対する理解を深めます。さらに基本的な保育方法や家庭への支援、関係機関との連携について、具体的に考察し習得することを目的とします。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念について理解し、言葉で説明できるようにします。 2. 多様な障害について理解し、その特性から支援に結びつけることができるようにします。 3. 多様な障害に対応した保育計画の内容の読み取りができるようにします。 4. 障害のある子どもの保護者への支援について理解できるようにします。 5. 他機関・他職種との連携のあり方が論じられるようにします。 			
テ キ ス ト	<p>障害児保育/藤永 保 監修/萌文書林 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレール館</p>			
参 考 書	<p>必要に応じて、プリント・資料を配付します。</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>授業態度20%、提出物20%、定期試験60%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ セ ー ジ	<p>保育者による障害のある子どもへの適切な対応は、その子どもの生涯の生活をより良いものにしていきます。さらに特別な支援を必要とする子どもへの適切な保育は、他の子どもにとっても質の高い保育となります。</p> <p>また、新聞やニュースを通して、障害児をとりまく社会環境の実態や変化に自ら関心を持つことも必要です。演習やグループワークも含めて、主体的に学び取る姿勢を持ち、予習・復習により学び深めてください。</p>			
の 事 項 他				

授業内容進行表

1 回	< 障害児保育を支える理念 1 > 障害のとらえ方と障がい児保育の歴史
2 回	< 障害児保育を支える理念 2 > 障害児保育の基本
3 回	< 障害の理解と保育における発達の支援 1 > 肢体不自由児の理解と支援
4 回	< 障害の理解と保育における発達の支援 2 > 視覚障害児、聴覚障害児の理解と支援
5 回	< 障害の理解と保育における発達の支援 3 > 知的障害児の理解と支援
6 回	< 障害の理解と保育における発達の支援 4 > 発達障害児の理解と支援
7 回	< 障害児保育の実際 1 > 障害児保育を支える記録・評価
8 回	< 障害児保育の実際 2 > 子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境
9 回	< 障害児保育の実際 3 > 子ども同士のかかわりと育ちあい
10 回	< 障害児保育の実際 4 > 職員間の協働
11 回	< 家庭や関係機関との連携 1 > 保護者や家族に対する理解と支援の方法
12 回	< 家庭や関係機関との連携 2 > 地域の専門機関などとの連携や子ども一人ひとりの支援計画の作成
13 回	< 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 1 > 保健・医療における現状と課題
14 回	< 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 2 > 福祉・教育における現状と課題
15 回	< 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 3 > 支援の広がりつつながり
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	中嶋 芳雄
授業概要	<p>地域における交流行事や福祉施設等における補助・援助、または各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行う。先ず初めに1年前期の事前指導において留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明する。自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容等を決め、実際に活動する。活動後は、所定の活動日誌をすみやかに作成・押印し、担当教員等の確認印を受けて提出する。その後の2年後期に、事後指導を受けながら活動の成果や課題について考察し、活動報告書を提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定をする。</p>			
授業科目の目的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきた。すなわち本授業では、社会の一員としての学生の「人間力」を培う活動に対し、また学生のこうした努力に対してそれらに報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ることをその目的としています。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力の育成を目指します。 2. 他者や社会の利益のために活動することが学生自身の楽しさや喜びとなり、延いてはコミュニケーション能力を高める等の人間的成長となることを目指します。 			
テキスト	<p>必要に応じてプリント教材を配付します。</p>			
参考書	<p>ボランティア活動の基礎と実際/米山岳廣 編著/文化書房博文社/1,900円 ボランティア まるごとガイド/安藤雄太監修/ミネルヴァ書房/2002年/1,500円+税 ボランティアのすすめ-基礎から実践まで-/岡本築一監修/ミネルヴァ書房/2005年/2,520円</p>			
成績評価基準	<p>ボランティア活動事前・事後指導の授業への「授業態度」20%、「ボランティア活動合計時間」70%、「活動日誌と活動最終報告書」10%により評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「ボランティア」は誰か人のためにするものと思われがちです。一方、社会と関わることで初めて自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、また今までとは違った自分に気づいたりするものです。「ボランティア活動」は卒業後、社会に出られる皆さんの大きな力となるものと確信いたします。皆さんの自主的で楽しい活動を大いに期待しています。</p>			
その他	<p>「活動日誌」はボランティア活動終了後、すみやかに担当者まで提出してください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<ボランティア活動事前指導1> ボランティア活動の「意義」と「定義」について
2 回	<ボランティア活動事前指導2> ボランティア活動に関する「事例」・「活動日誌」・「報告書」について
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	<ボランティア活動事後指導1> ボランティア活動の「感想」と「反省」について
13 回	<ボランティア活動事後指導2> ボランティア活動の「成果」と「課題」について
14 回	<ボランティア活動事後指導3> ボランティア活動の「報告書」作成について
15 回	<ボランティア活動事後指導4> 「全体総括」と「まとめ」について
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
特 別 研 究 I	1 年 ・ 通 年	演 習	60時間 (2 単 位)	担当教員
授 業 概 要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇A・演劇B・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>1 年生と 2 年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1 年生、2 年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テ キ ス ト	必要に応じてプリントします。			
参 考 書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成 績 評 価 基 準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け（A・Bグループ：演劇、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：紙芝居）	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習1 C・Eグループ：練習1 Dグループ：作品の準備、練習6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究1	17 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Eグループ：練習2 Dグループ：作品の準備、練習7
3 回	A・Bグループ：台本作り2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究2	18 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Eグループ：練習3 Dグループ：作品の準備、練習8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Eグループ：脚本づくり1 Dグループ：運動遊びの研究3	19 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Eグループ：練習4 Dグループ：作品の準備、練習9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Eグループ：脚本づくり2 Dグループ：運動遊びの研究4	20 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Eグループ：練習5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Eグループ：製作1 Dグループ：運動遊びの研究5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Eグループ：製作2 Dグループ：運動遊びの研究6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習1（春の自然素材）	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習2（秋の自然素材）
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Eグループ：製作4 Dグループ：作品の準備、練習1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Eグループ：製作5 Dグループ：作品の準備、練習2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Eグループ：製作6 Dグループ：作品の準備、練習3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Eグループ：製作7 Dグループ：作品の準備、練習4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作8 Dグループ：作品の準備、練習5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅱ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇A・演劇B・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け（A・Bグループ：演劇、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：紙芝居）	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習1 C・Eグループ：練習1 Dグループ：作品の準備、練習6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究1	17 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Eグループ：練習2 Dグループ：作品の準備、練習7
3 回	A・Bグループ：台本作り2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究2	18 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Eグループ：練習3 Dグループ：作品の準備、練習8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Eグループ：脚本づくり1 Dグループ：運動遊びの研究3	19 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Eグループ：練習4 Dグループ：作品の準備、練習9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Eグループ：脚本づくり2 Dグループ：運動遊びの研究4	20 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Eグループ：練習5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Eグループ：製作1 Dグループ：運動遊びの研究5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Eグループ：製作2 Dグループ：運動遊びの研究6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習1（春の自然素材）	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習2（秋の自然素材）
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Eグループ：製作4 Dグループ：作品の準備、練習1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Eグループ：製作5 Dグループ：作品の準備、練習2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Eグループ：製作6 Dグループ：作品の準備、練習3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Eグループ：製作7 Dグループ：作品の準備、練習4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作8 Dグループ：作品の準備、練習5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
特 別 研 究 Ⅲ	2 年・通年	演習	60時間 (2 単位)	担当教員
授 業 概 要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇A・演劇B・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>1 年生と 2 年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1 年生、2 年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テ キ ス ト	必要に応じてプリントします。			
参 考 書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成 績 評 価 基 準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
メ ッ セ ー ジ と	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け（A・Bグループ：演劇、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：紙芝居）	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習1 C・Eグループ：練習1 Dグループ：作品の準備、練習6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究1	17 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Eグループ：練習2 Dグループ：作品の準備、練習7
3 回	A・Bグループ：台本作り2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究2	18 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Eグループ：練習3 Dグループ：作品の準備、練習8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Eグループ：脚本づくり1 Dグループ：運動遊びの研究3	19 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Eグループ：練習4 Dグループ：作品の準備、練習9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Eグループ：脚本づくり2 Dグループ：運動遊びの研究4	20 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Eグループ：練習5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Eグループ：製作1 Dグループ：運動遊びの研究5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Eグループ：製作2 Dグループ：運動遊びの研究6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習1（春の自然素材）	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習2（秋の自然素材）
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Eグループ：製作4 Dグループ：作品の準備、練習1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Eグループ：製作5 Dグループ：作品の準備、練習2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Eグループ：製作6 Dグループ：作品の準備、練習3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Eグループ：製作7 Dグループ：作品の準備、練習4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作8 Dグループ：作品の準備、練習5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅳ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇A・演劇B・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け（A・Bグループ：演劇、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：紙芝居）	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習1 C・Eグループ：練習1 Dグループ：作品の準備、練習6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究1	17 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Eグループ：練習2 Dグループ：作品の準備、練習7
3 回	A・Bグループ：台本作り2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究2	18 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Eグループ：練習3 Dグループ：作品の準備、練習8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Eグループ：脚本づくり1 Dグループ：運動遊びの研究3	19 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Eグループ：練習4 Dグループ：作品の準備、練習9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Eグループ：脚本づくり2 Dグループ：運動遊びの研究4	20 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Eグループ：練習5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Eグループ：製作1 Dグループ：運動遊びの研究5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Eグループ：製作2 Dグループ：運動遊びの研究6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習1（春の自然素材）	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習2（秋の自然素材）
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Eグループ：製作4 Dグループ：作品の準備、練習1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Eグループ：製作5 Dグループ：作品の準備、練習2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Eグループ：製作6 Dグループ：作品の準備、練習3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Eグループ：製作7 Dグループ：作品の準備、練習4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作8 Dグループ：作品の準備、練習5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教職論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	芦田 哲
授業概要	<p>本授業では、教職免許に関する科目として、「人間形成の基礎を培う重要な時期」に関わる教職（以下、保育職も含む）の意義、教員（以下、保育士も含む）の役割と専門性、職務内容と課題、必要とされる資質・能力、果たすべき役割や仕事の意義等について学習していきます。</p> <p>同時に、学生が教育者（以下、保育者を含む）としてのあり方を見つめ直し、認識と自覚を深め、使命感を高めることを目的とします。あるべき教育者・保育者像、人間像の形成に向かって心情、意欲、態度等を養います。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習・生活を見つめ直し、ライフデザインを描き、「今なすべきこと」を見出して実践することを目的とします。 2. 教育者の役割、あるべき姿について学び、考察して、自分が目指す教師像・人間像が描けることを目的とします。 3. 教育者がおかれている現状と問題点（課題）を知り、必要とされる専門性について学ぶことを目的とします。 4. 教育に留まらず現代社会の現状や課題に関心を深め、子どもとともに成長を続ける心構えや意欲を核心に持つことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育者の役割と倫理について考察を深め、論じることができるようになります。 2. 教育者の制度的な位置づけを認識し、説明することができるようになります。 3. 教育者の専門性について概略を理解し、教育を担う者として意欲を高めることができるようになります。 4. 教育者の協働について理解を深め、自己能力の発揮と他者理解の態度を養うことができるようになります。 5. 教育者の専門職的成長について理解し、常に研修を怠らず「能力・技術・人間性を鍛える心構え」を養うことができるようになります。 			
テキスト	<p>教職論/和田幸司他編/弘徳学園 保育所保育指針および解説書/フレーベル館 幼稚園教育要領および解説書/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書/フレーベル館</p>			
参考書	<p>保育用語辞典 第7版/森上史朗 他編/ミネルヴァ書房/2013年/2,484円 教職論 「よい教師」への扉を開く/佐島群巳他編/学文社/2010年/1,728円 実践に活かす教育基礎論・教職論/樋口直宏他編/学事出版/2010年/2,160円 保育者論【新版】/小田 豊等編著/木大路書房/2015年/1,836円 今に生きる保育者論/秋田喜代美他編/(株)みらい/2015年/2,160円</p>			
基 成績評価 準	<p>受講態度（リアクションペーパーを含む）30%、レポートやプレゼンテーション20%、期末テスト（持ち込み不可）50%を総合的に評価します。</p>			
メ 受講の心構えと ツッ セー ジ	<p>授業は主として講義形式になりますが、双方向（応答）型の授業を心掛けたいと考えています。</p> <p>真に優れた教育者・保育者は、優れた社会人でもあります。この授業は教育者・保育者はいかにあるべきかを考えながら、教育者・保育者となる自分自身を見つめる時間にしてください。幼稚園教諭・保育士を志望する人はもちろんこと、志望しない人も「人間論」「子育て論」として学び、有意義な授業を作り上げていきましょう。自分自身を客観的に把握したり、他者の考えを受け止めながら、主体的に学ぶことを期待しています。</p> <p>普段の予習は強要しませんが、復習はしてください。また、新聞記事や参考図書も紹介しますので、日常から新聞に目を通したり、読書をするように心がけてください。</p>			
の 其 事 他 項				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 教職論の意義・ほんものの教師とは
2 回	<教員養成の歴史> 教員養成の歴史と教師像の変遷
3 回	<任務と服務> 教員の身分・地位、教職と服務・関係法規、教職における倫理、分限と懲戒
4 回	<保育者の仕事と役割> 幼稚園教員の1日と役割、保育所の1日と主な仕事、学級づくり
5 回	<教師の資質向上と研修> 求められているプロとしての教員の資質・能力・研修（必要な人間性・知識・技術・態度、使命感など）
6 回	<保育者集団と職場環境づくり> 保育者集団の一員として、よりよい人間関係 保育者の学びと研修、幼児教育における保育者の権利
7 回	<教育実習の意義と目的、心構え> 教育実習の意義と目的、教育実習に対する心構え、実習の具体的進め方と内容
8 回	<採用試験> 採用の現状と課題、採用試験の実態と傾向と対策
9 回	<保育者の資質と役割> 保育の基本、保育者の資質・能力、教育課程・保育過程と自己評価、保育者の制度的位置づけ
10 回	<子どもの育ちの危機と子育て支援> 子どもの育ちが危ない、「気がかりな子」への対応、子育て支援と保育者の役割
11 回	<人間関係> 道徳性の芽生え、規範意識の芽生え、思いやり、規範意識、ルールやマナー、相手を尊重するとは
12 回	<環境に関する意識の芽生え> 環境とは 好奇心→探究心→思考力へ
13 回	<言葉による伝え合い 食育> 言葉の使い方、人の話を聞くということ、絵本の読み聞かせ、食育とは、給食と弁当、食育の目指すべきもの、会食のルール
14 回	<協同的な活動 体験の多様性と関連性> 協同的な活動とは、「体験」と「活動」、多様性と関連性
15 回	<学生時代に学ぶこと> 対話力を身に付ける、自分の世界を持つ、児童文化財を楽しむ、学生生活は保育者になるための「宝さがし」、いいものを「見る」、そしていいものと「感じる」
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育原理	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	伊藤 博
授業概要	<p>教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を学習します。また、文部科学省が授業で採用するよう推奨しているアクティブラーニングの手法を取り入れた学習方法により、今まで受け身的であった学習態度から、能動的な学習態度に移行していただけるようになります。自分の意見を述べるとともに他の学生の意見をしっかりと聴くことなどにより、自分の意見や考えを肯定したり、修正したりすることにより「教育とは何か」を深く考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育とは何か」に対して自分なりに考えることができるようになります。 2. 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想などについての、基本的な原則や理論的な基礎などが理解できるようになります。 3. 将来教員を目指すため、現在の教育問題を考える際の前提となる知識を身につけ、教育に対して深く理解できるようになります。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の理念及び児童福祉との関連性について理解できます。 2. 教育の基礎的概念、理論、歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得することができます。 3. 教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について理解できます。 4. 生涯学習社会における教育の在り方について考えることができます。 5. 教育学的な思考や態度を習得することができます。 			
テキスト	教育原理／小田豊監修、野尻裕子・栗原泰子編著／光生館／2014年／2000円			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 二十四の瞳／壺井栄／光文社／1952年／新潮文庫など多数文庫化 聖職の碑(いしぶみ)／新田次郎／講談社／1976年(講談社文庫 1981年)</p>			
成績評価基準	毎回提出のレポート30%、授業態度点20%、定期試験50%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業のシラバスをしっかりと読み込み、自分なりの意見や考えを述べるように、日常から教育に関する話題を新聞やインターネットなどから情報として得るように心がけてください。 ・授業の中で【プロジェクト学習】を行いますので、この時は指定された部分の事前学習（予習）をいつもより念入りにしっかりとやっておいてください。 ・遅刻や欠席がないように毎回頑張ってください。幼児教育についてあなたに伝えたいことが沢山あります。 ・質問などは授業中に積極的に行うようにしてください。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	教育とは その1 教育の意義、教育の理念
2 回	教育とは その2 成長と教育、教育の目的
3 回	教育と福祉 その1 子どもの権利条約、ECEC についての国際的な潮流
4 回	教育と福祉 その2 日本における就学前教育と児童福祉、家庭・地域に対する教育施策・福祉施策
5 回	日本の教育の歴史 その1 . . .【プロジェクト学習】 近代学校の成立、近代公教育制度の展開
6 回	日本の教育の歴史 その2 教育改革と学校教育、現代社会における学校教育の課題
7 回	教育観と子供観の変遷 -日本- . . .【プロジェクト学習】 近代日本までの教育理論、大正期・昭和期の幼児教育理論、代表的な幼児教育理論
8 回	教育観と子供観の変遷 -諸外国- 教育観と子供観の変遷、世界の幼児教育
9 回	保育を取り巻く制度とその変遷 その1 日本の教育制度、教育と福祉の法規
10 回	保育を取り巻く制度とその変遷 その2 教育行政の目的と組織、虐待と子どもの人権
11 回	保育内容の変遷 その1 「幼稚園規則」による保育、保育項目による保育、保育内容（5領域）による保育
12 回	保育内容の変遷 その2 . . .【プロジェクト学習】 保育内容（5領域）による保育、保育所における保育内容
13 回	教育の実践 その1 . . .【プロジェクト学習】 教育目的・教育目標、教育の内容
14 回	教育の実践 その2 教育の方法、教育の計画、教育実践の多様な取り組み
15 回	生涯学習社会の中で 生涯学習の基礎、生涯学習社会と学校教育、生涯学習社会における保育者の役割
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育心理学	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	<p>教育心理学の主な領域は、発達、学習・教授、性格、社会、測定・評価から成り立っています。</p> <p>その領域に満遍なく触れながら、本講義では、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え、捉え方を紹介します。学習や動機付け、人間関係、教育評価といった教育心理学の中心となる内容とともに、信頼関係の基礎となるカウンセリングマインドなどについても発展させていきます。心理学という枠組みからの理解や考え方を学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。発達、学習・教授、性格、社会、測定・評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基礎的知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達、学習・教授、性格、適応、評価にかかわる教育心理学の基礎的な事項の理解し、その特徴を説明することができるようにします。 2. 生活、教育・保育場面を心理学の観点から見つめ分析し保育実践に応用することができるようにします。 3. 多様な学びを通した子どもたちの心身の育ちの過程について、論じることができるようにします。 			
テキスト	<p>随時配付します。</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 学びと教えて育つ心理学 ― 教育心理学入門 ― /小林芳郎編著／保育出版社／2011年／2,381円＋税</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート・復習課題30%、定期試験60%により総合的に数値化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「学ぶこと」「教えること」そして「育てること」は、「保育」「教育」に携わる人々にとって、とても身近でとても重要な活動になります。ぜひ、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。</p> <p>また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感を持ちながら、学んでほしいと願っています。</p> <p>保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで。毎回指示していく予習・復習をに取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと心から期待しています。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 教育心理学の領域と目的・研究方法
2 回	<子どもの発達1> 発達の原理・段階と個人差
3 回	<子どもの学び1> 学習理論／レスポナント条件付け
4 回	<子どもの学び2> オペラント条件付け
5 回	<子どもの学び3> 観察学習／洞察
6 回	<子どもの意欲1> 動機づけとは何か／自己効力感
7 回	<子どもの意欲2> 原因帰属／学習性無力感
8 回	<パーソナリティ1> 類型論／特性論／精神分析理論
9 回	<パーソナリティ2> 性格検査／適正処遇交互作用
10 回	<子どもの発達2> 人間関係の発達／社会性・道徳性の発達
11 回	<学級集団での学び：どのように教えるか> 学習指導と教授法／発見学習／プログラム学習
12 回	<子どもの適応1> 適応とは何か／欲求とその種類
13 回	<子どもの適応2> 欲求不満と適応機制
14 回	<発達援助と協働> 保育者として人と向き合うための技術：マイクロカウンセリング
15 回	<評価する> 教育評価の意義と方法／診断的評価・形成的評価・総括的評価
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
発達心理学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口 和也
授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。生涯発達という視点に立ち、こころとからだ、ことば、考える力などの発達を学び、くわえて保育実践を行う上で重要な話題を取り上げて、学びを深めていきます。また、子どもたちひとり一人に寄り添えるより良い保育を提供するために、特別な支援を必要とする子どもへの支援・援助についても解説します。			
授業科目の目的	<p>保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育において心理学を学ぶ意義について理解していきます。</p> <p>発達心理学では、子どもと取り巻く環境との密接な相互のかかわりを通じて、発達は進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学におけるものの見方、考え方を学ぶことが目的となります。</p> <p>保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育にかかわる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようにします。 2. 心理学的な理解を行うための、ものの見方、考え方を学び、それらを基礎として、子どもの発達を論じることができるようにします。 3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し説明することができるようにします。 			
テキスト	随時、配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 保育の心理学 I／柳生崇志・梅崎高校編著／大学図書出版／2013年／1900円＋税</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講のセーブルと心構え	<p>発達心理学は、私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多くある授業になります。そして、心理学という人を学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、“確かな学びを得る”ことが肝心となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する、知識とともに各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずにしてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 保育の中の心理学／子どもを理解するとは
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ／発達観
3 回	<初期経験の重要性> 気質と環境／文化
4 回	<基本的信頼感の獲得> 愛着とはなにか／ホスピタリズム
5 回	<発達とは何か1> 誕生から乳幼児期まで
6 回	<発達とは何か2> 児童期から老年期まで
7 回	<生涯発達の諸理論> 心理社会的発達理論／発達課題
8 回	<こころの育ち1> 情動の発達と自我
9 回	<こころの育ち2> 自己表出とこころの理論の発達
10 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
11 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
12 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
13 回	<特別な支援ニーズと援助> 特別な支援を要するこどもへの援助
14 回	<保育実践の評価と心理学> 発達の最近接領域／実践を振り返る
15 回	<まとめ> 人の育ちと環境との相互作用の意義
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文化	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	小西 律
授業概要	<p>保育現場で使用されるこどもの文化財について、理論を踏まえた上で、役に立つ技術を身につけること。こども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現が出来るようにすること。この両面を視野に入れた学習を行います。その上で、絵本、紙芝居、パネルシアター、折り紙などの文化財、伝統文化、遊びなどを取り上げ、実践に重きをおいた授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども達の生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などはどのようなか理論を踏まえ、こどもが豊かに育ち行くに好ましい文化のあり方、意義について理解することを目的とします。 2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語を媒介とする教材を取り上げ、実践による保育技術の習得を図り、実践からはそれらがこどもの生活経験と深く関わることを体得することを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本、紙芝居、劇あそびなど保育の場で使用されるこどもの文化財が持つ特性、意義を説明できるようにします。 2. 保育の場で使用される文化財についてその内容及び保育技術が獲得できるようにします。 3. 絵本、紙芝居などの実践からこどもの言葉、情緒を豊かに育くむこととの関連性が認識できるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>かならず折れるおりがみ①②③／小林一夫監修／ひかりのくに／2005年／本体800円 読み聞かせ この素晴らしい世界／ジム・トレリース、亀井よし子訳／高文研／1,365円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験 20%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物（復習課題・レポート）20%、実践 40%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育の場でこどもの文化の占める範囲、位置は広く重く、ここまでと制限出来るものではありません。日々、使用される絵本、紙芝居、折り紙などは一見すると、その場で簡単に出来そうですが、実際はそうではありません。これらは具体物を使用するがゆえに、読めばよい、折ればよいと安易に思われてしまう危険性を孕んでいます。こどもの日々の生活や成長を考えながら心して選択し、準備しておくことが大切なのです。繰り返しますが、その場で出来るというものなどではないのです。</p> <p>こども達の育みを豊かにするためにどのような文化が必要なのかを常に考え、練習をし、私はこれだったら絶対大丈夫というものが身に付くことを目標に授業に臨んでください。また、授業の中で伝統食文化について前・後期1回実践活動を行います。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<こどもと文化の関わり > 意義、歴史、成長・発達と遊び、玩具	16 回	<紙芝居 2 > 上演の仕方、手直し、練習
2 回	<視聴覚教材について> テレビ、ゲーム、コンピュータの効用と課題	17 回	<紙芝居 3 > 紙芝居の上演 (1)
3 回	<伝統文化とこども 1 折り紙 (1) > 意義、折り紙の基礎、小動物	18 回	<紙芝居 4 > 紙芝居の上演 (2)
4 回	<伝統文化とこども 2 折り紙 (2) > こどもと五節句、歴史、端午	19 回	<紙芝居 5 > 紙芝居の上演 (3)
5 回	<伝承あそび> 伝承あそびとは、歴史、あやとりなど	20 回	<紙芝居 6 > 紙芝居の上演 (4)
6 回	<絵本 1 > こどもと絵本、絵本とは、絵本の種類	21 回	<食文化> 秋の自然素材
7 回	<絵本 2 > 絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点	22 回	<お話> 意義、選び方 語り聞かせの方法と留意点
8 回	<絵本 3 > 絵本の読み聞かせ (1) 実践	23 回	<パネルシアター 1 > こどもとパネルシアター・人形劇、意義、制作の仕方と留意点
9 回	<食文化> 春の自然素材	24 回	<パネルシアター 2 > 制作 (1)
10 回	<絵本 4 > 絵本の読み聞かせ (2) 実践	25 回	<パネルシアター 3 > 制作 (2)、上演の仕方、練習
11 回	<絵本 5 > 絵本の読み聞かせ (3) 実践	26 回	<パネルシアター 4 > パネルシアターの上演 (1)
12 回	<絵本 6 > 絵本の読み聞かせ (4) 実践	27 回	<パネルシアター 5 > パネルシアターの上演 (2)
13 回	<伝統文化とこども 3 折り紙 (3) > 壁面作成を考える	28 回	<パネルシアター 6 > パネルシアターの上演 (3)
14 回	<伝統文化とこども 4 > 五節句 七夕	29 回	<伝統文化とこども 5 折り紙 (4) > 紙鉄砲、飛行機、五節句 節文、雛祭り
15 回	<紙芝居 1 > 歴史、特徴、作成の仕方	30 回	絵本、紙芝居、1年間を通してのレポート 作成とまとめ
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>どのようなこと（教育・保育目標）を大切にして、どのような方法（教育・保育方針）で、どのようなこと（教育・保育内容）を、どの時期（教育・保育期間）にしていくかという全体計画が教育課程・保育課程であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるのか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解することができます。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得することができます。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解することができます。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができます。 			
テキスト	教育課程・保育計画総論／田中亨胤・佐藤哲也編著／ミネルヴァ書房／2,000円＋税			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>受講態度・意欲30%、レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えと その他	<p>教育課程・保育課程は、教育・保育のあり方や内容を定めるものです。保育者としての意識を高めるよう積極的・主体的な授業参加をしてください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	<教育（保育）課程の基礎理論> 教育（保育）課程の意義と必要性
3 回	<教育（保育）課程の構造> 教育（保育）課程編成の前提・基盤
4 回	<幼稚園の教育課程> 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方・編成・評価
5 回	<保育所の保育課程> 保育課程の基本
6 回	<保育所保育の特性を踏まえて> 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	<長期の指導計画> 園生活と長期の指導計画
8 回	<短期の指導計画> 短期指導計画の意義・作成・活用
9 回	<保育の計画と評価> 保育の実践と観点表
10 回	<幼・保・小の連携カリキュラム> 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	<開かれた園生活のカリキュラム> 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	<危機管理保育のカリキュラム> 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性
13 回	<時代の変化と新たな保育内容 1 > 多文化保育のカリキュラム
14 回	<時代の変化と新たな保育内容 2 > 総合施設におけるカリキュラム
15 回	<時代の変化と新たな保育内容 3 > 信頼される園づくりと学校評議員制度
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。</p> <p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>			
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができます。 2. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶことができます。 3. 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解することができます。 4. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解することができます。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶことができます。 			
テキスト	<p>幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 適宜関連資料を配布</p>			
参考書	<p>保育用語辞典／ミネルヴァ書房 月間保育とカリキュラム／ひかりのくに</p>			
成績評価基準	<p>受講意欲20%、課題・レポート等提出物20%、定期試験60%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>教育課程論、教育方法論や各領域で学んできたことと、実習で経験したことを関連づけながら保育の内容について考えてみましょう。実践事例からのグループ協議なども行います。皆さんの積極的な参加を望みます。</p>			
その他	<p>常に、「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・保育の基本と保育内容 1> 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
2 回	<保育の基本と保育内容 2> 保育の全体構造と保育内容
3 回	<保育内容の歴史の変遷> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷にみる特徴と課題
4 回	<保育内容と子ども理解 1> 子どもの発達の特徴と保育内容
5 回	<保育内容と子ども理解 2> 個と集団の発達と保育内容
6 回	<保育内容と子ども理解 3> 保育における観察と記録
7 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1> 養護と教育が一体的に展開する保育
8 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2> 環境を通して行う保育
9 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3> 遊びによる総合的な保育
10 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4> 生活や発達の連続性に考慮した保育
11 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5> 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
12 回	<保育の多様な展開 1> 乳児保育
13 回	<保育の多様な展開 2> 長時間保育・多文化共生の保育
14 回	<保育の多様な展開 3> 特別な支援を必要とする子どもの保育
15 回	<「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解> 比較と理解
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと健康	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	片岡 巧
授業概要	<p>保育は、実践によって成り立つものです。 それを実りあるものにするためには、理論的学習が必要です。 乳幼児期の健康に対する幅広い知識と、個々の発育発達の状態に対する配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、子どもを取り巻く現代の生活環境にも目を向けながら、子どもへの積極的な健康指導を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎をつくる重要な時期です。 この授業は、子どもの健康を守り育てるために、子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、一人一人の子どもの健康状態を評価する能力を養うことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになります。 2. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようになります。 3. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができるようになります。 4. 健康に関する内容について、指導案を作成することができるようになります。 5. 健全な発育発達を阻害している問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチしようとする力を身につけることができるようになります。 6. 安全教育を理解し、管理および指導の方法が分かるようになります。 			
テキスト	<p>子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」/編著 高内正子/保育出版社 幼稚園教育要領解説/文部科学省 保育所保育指針解説書/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/厚生労働省/文部科学省</p>			
参考書	<p>必要に応じて、授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>学習成果の1～6までは、筆記試験、レポート、グループディスカッションなどにより、知識態度の修得を確認します。 受講姿勢・関心意欲：20% レポート&グループディスカッション：30% 定期試験：50%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心を持ち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。 また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p>			
その他	<p>必要に応じて参考になるプリントを配付しますので、ファイルしておいてください。 また、テキスト等を活用して、予習復習を行った上で授業に臨んでください。</p>			

授業内容進行表

1 回	< 健康の定義 > 健康とは何か
2 回	< 領域「健康」の理解 > 領域「健康」のねらいと内容
3 回	< 基本的生活習慣の獲得 1 > 基本的生活習慣の指導と援助
4 回	< 基本的生活習慣の獲得 2 > 伝統的民族行事や保育行事との関連
5 回	< 子どもの健康と食生活 > 食育と健康との関わり
6 回	< 子どもの健康と自然環境 > 自然とのふれあいと子どもの健康
7 回	< 子どもの遊びと健康 1 > 子どもの遊びとは何か
8 回	< 子どもの遊びと健康 2 > 子どもの遊びと土踏まずとの関わり
9 回	< 子どもの遊びと健康 3 > 様々な運動遊びの指導のあり方（指導案作成）
10 回	< 子どもの遊びと健康 4 > 様々な運動遊びの指導のあり方（指導案作成及び模擬保育）
11 回	< 子どものこころの健康 1 > 子どものこころの発達の仕方
12 回	< 子どものこころの健康 2 > 子どものこころの発達と虐待や喫煙などとの関わり
13 回	< 子どものこころの健康 3 > いのちを大切にすることの重要性（人の誕生や園における飼育活動などを通して）
14 回	< 保育環境の安全性 1 > 子どもへの安全教育の仕方
15 回	< 保育環境の安全性 2 > 安全管理のあり方
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと人間関係	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	野口 和也
授業概要	<p>こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々な活動とおした人間関係の発達について解説していきます。</p> <p>また、人と人が接し共に理解し合い協働で活動を展開していく保育においても、「保育者の人間関係」を視野に入れながら、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していきます。人は人のとの中で生き、その関係の中で育ちゆくという視点を中心に、「保育内容における人間関係」の基礎の習得を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもたちの育ちには、取り巻く人的物理的な環境との相互作用が影響を与え欠かすことができません。こどもたちの世界には、数えきれない様々な経験・体験があり、そのひとつひとつは人間関係の発達に関係します。その経験・体験、人間関係について学び、「保育者としての人のとの関係」における様々な協働にも目を向けながら、想像し考えを深めるとともに「保育内容における人間関係」についての基礎の習得を目的としていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて言葉で説明できるようにします。 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など、こどもを深く理解する視点を持ち、その要点を論じることができるようになります。 養育者・保育者などこどもを取り巻く人的環境における関係性についても考察し、実際の場面に応用することができるようになります。 			
テキスト	随時配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
基準 成績評価	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数値化して評価します。			
メッセ ージ	<p>保育内容の「こどもと人間関係」という領域は、日常の保育の中に溢れています。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域を確実に理解するとともに、実践活動を意識しながら基礎的な知識を積み上げていきましょう。</p> <p>また、この授業で取り上げる「人間関係」は広範囲に渡りますので、それは私たち自分自身のことを考える機会になりえるかも知れませんし、私たちが出会えた大切な人々、仲間との人間関係についても考察を深めていく時間になれば良いと思っています。予習・復習を行い授業に臨むことが、知識として、実践技術として身に付くための必要条件と考えます。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 保育内容における「人間関係」の位置づけ
2 回	<領域「人間関係」の考え方> 領域「社会」から「人間関係」へ / 現在の領域「人間関係」の考え方
3 回	<現代社会とこどもの人間関係1> 人間関係の始まりと愛着
4 回	<現代社会とこどもの人間関係2> 最初の社会としての家族
5 回	<現代社会のこどもの人間関係3> 自己概念と理解 / 自分作り
6 回	<人間関係の展開1> つまずきと葛藤の中で育つ力
7 回	<人間関係の展開2> ルール・決まり事の意味・意義
8 回	<人間関係と保育の多様性> 現代的な諸課題に対応した保育
9 回	<保育者とこどもの人間関係1> 「遊び」の中で育つもの
10 回	<保育者とこどもの人間関係2> 人間関係を育てる保育者の役割
11 回	<保育者の人間関係1> こども-こども：気になる姿に寄り添う者としての保育者
12 回	<保育者の人間関係2> 保育者-養育者：育児支援者としての保育者
13 回	<保育者の人間関係3> 保育者-保育者：チーム保育と園内協力体制
14 回	<保育者の人間関係4> 保育者-関係機関：発達支援システムと関係機関との連携
15 回	<地域子育て支援にかかわる人間関係> 地域子育て支援センターとしての幼稚園、保育所、認定こども園
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと環境	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>子どもは家庭・保育所・幼稚園・認定こども園・地域社会などの「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活しています。その中で、さまざまな体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われます。</p> <p>それらをふまえ、本科目では、子どもの発達に応じた環境とかわりを概観し、教育要領、保育指針、教育・保育要領、指定テキスト及びDVDなどを参考にし、保育現場における具体的な子どもの活動事例を取り上げながら学習を進めていきます。グループディスカッションやグループ発表等を行い、他者の考えにふれながら学びを深める授業形態も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期の子どもたちの発達と環境について考えてみることにより、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて学んでいきます。また、乳幼児期の子どもたちが通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境（人的、物的、自然、社会、文化など）について関心を深め、子どもの発達特性をふまえた保育環境を意図的に構成できるようにします。 2. 環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割について論じることができるようになります。 3. 保育者として、一人の人間として人間観、子ども観などを成熟しようとすることができるようになります。 			
テキスト	演習 保育内容 環境/柴崎正行編著/建帛社/2010年/1,512円			
参考書	<p>新 子どもと環境 理論編/小田豊編著/三晃書房/2008年/2,200円+税</p> <p>保育内容 環境/日名子太郎・細野 一郎・藤樫道也 共著/学芸図書/2000年/1,700円+税</p> <p>子どもと環境から考える保育内容/大橋喜美子・三宅茂夫 編著/北大路書房/2009年/2,376円</p>			
成績評価基準	<p>3つの学習成果について、課題発表とレポート提出、定期試験により理解度を評価します。定期試験を50% 課題・製作・発表等30% 授業態度を20%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立って指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。</p> <p>事前にテキストを読み予習してください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 「こどもと環境」を学ぶことの意義
2 回	<保育の基本と保育内容1> 保育の基本とは
3 回	<保育の基本とは保育内容2> 領域「環境」の位置づけ (「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記述から)
4 回	<子どもと環境のかかわり1> 身近な自然・生き物とのかかわり
5 回	<子どもと環境のかかわり2> 物・文字・記号・数量とのかかわり
6 回	<子どもと環境のかかわり3> 情報や施設、園内外行事とのかかわり
7 回	<園庭の自然や遊具とのかかわり> 園庭の自然・遊具とのかかわり
8 回	<室内の遊具・教材・設備とのかかわり> 室内遊具と教材・設備とのかかわり
9 回	<飼育・栽培・園外保育> 飼育活動・栽培活動・園外保育・それぞれの意義と保育者の援助について
10 回	<領域「環境」と指導計画> 領域の考え方、生活と計画
11 回	<領域「環境」と保育方法> 1日の生活時間の構造(自発活動時間、片付け、食事、降園時の集会について)
12 回	<領域「環境」と保育の実際1> 身の回りの生活環境の変化や法則
13 回	<領域「環境」と保育の実際2> 思考力の芽生えと好奇心・探求心をもつこと
14 回	<子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割> 人的環境としての友達の存在と保育者の存在
15 回	<領域「環境」のまとめ> 保育内容の総合性と魅力ある保育環境づくり
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと言葉	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	小西 律
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、相互の意見交換や文字への興味、言葉の持つ楽しさや、言語教材についても実践的な取り組みを行い、言葉を獲得するとはどういうことなのかを探求します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とします。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く態度・姿勢について理解することを目的とします。 3. こどもの豊かな言葉を育む保育者の言葉のあり方について認識し、理解することを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するかをふまえ、こどもとのコミュニケーションをとることができるようにします。 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようにします。 3. ヘレンケラーの事例から人間の言葉の持つ意味を捉え、認識できるようにします。 4. こどもの手本となる保育者の言動のあり方を認識し、理解できるようにします。 			
テキスト	保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	保育内容 実践と研修シリーズ「ことばの育ち」／村石昭三／フレーベル館／1,800円 魅力ある保育者たち／高石自子／ひかりのくに／1,200円			
成績評価基準	定期試験 50%、レポート・作品・実践 20%、授業・課題に取り組む姿勢 30%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	人は人に生まれ人としての成長をします。その人との関わりの過程から言葉は獲得されるものです。言い換えれば、言葉を通して人は成長していくといえましょう。言葉はその人の人間性を表現するもの、こども達の言葉の発達を豊かに育むことを目指して授業に臨んでください。年齢が低いとトーンは高く、年齢が上がるにつれてトーンも落ち着き話している内容も聞き取りやすくなります。そうした実学としての学びのために、こども達が話している言葉の聞き取りを予習復習も兼ね毎時の課題とします。授業の中でこども達の言葉の聞き取りを毎時の課題とします。詳しくは授業中に説明します。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<言葉の位置付けと他領域との関わり／言葉と生活 1> 幼児教育と言葉とは何か 自己表現としての言葉の確立
2 回	<言葉と生活 2> 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
3 回	<言葉と生活 3> 領域「言葉」について 「言葉」の意義・内容
4 回	<乳幼児期の言葉の発達 1> 0歳～2歳
5 回	<乳幼児期の言葉の発達 2> 3歳・4歳
6 回	<乳幼児期の言葉の発達 3> 5歳～就学前
7 回	<『奇跡の人』視聴 1> サリバンの教育と言葉のもつ意味
8 回	<『奇跡の人』視聴 2> サリバンの教育と言葉のもつ意味、レポート作成
9 回	<言葉から文字へ 1> 文字への関心、文字による環境、文字体験としてのカルタ、絵カード制作(1)
10 回	<言葉から文字へ 2> 文字体験としてのカルタ、絵カード制作(2)
11 回	<言葉から文字へ 3> 制作したカルタ、絵カードによる実践あそび
12 回	<言葉の環境 1> 母親との関わり、母親の言葉掛け
13 回	<言葉の環境 2> 保育者との関わり、保育者の言葉のあり方
14 回	<言葉をめぐる問題> 言葉のおくれや障害、標準語と地域語、外国のこどもとの対応
15 回	<幼稚園、保育園と小学校との連携> 聞く態度を養い、自己の言葉を使用した表現、「言葉」と小学校、小学校の文字指導に繋ぐには <まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもとリズム表現	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	茨木 金吾
授業概要	<p>こどもにとって表現とは何か、保育の中でどのような意味を持つのか、表現する力を育てるとはどういうことなのかをドラマにおける表現方法、幼児用楽器などを使用しての音楽表現、ごっこ遊びや劇遊びなどの遊びを通しての身体表現から、その理論と実践方法を学習し、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p> <p>また、こどもの活動を「表現」という一つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識や技能と関連させながら考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、こどもの遊び(音楽表現遊び・身体表現遊び)を豊かに展開するために必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現的領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とします。</p> <p>また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な表現活動に関する知識や技術をも合わせて習得していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定が理解できます。 2. 保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できます。 3. 表現する力を育てるための手法を、身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できます。 4. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助のあり方を、ごっこ遊び、劇あそびを展開する中で考察し、そのきっかけをつかむことができます。 			
テキスト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著/圭文社 幼稚園教育要領/文部科学省/フレーベル館/100円+税 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/190円+税 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館/120円+税 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館/190円+税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/249円+税</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著/すずき出版 楽しく遊べる子どもの音楽表現 手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた/ 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著/(株)大学図書出版/2,700+税</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験(習得した実践内容+講義内容を合わせた試験)・・・90% 2. 学習態度、意欲・・・10% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に動き、グループ内での協調性を大切にしていき、幼稚園教諭及び、保育士を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。 2. 学びを確実なものにするためにも学び得られたものを復習することはもちろんですが、次への学びを容易にするためにも、必ず予習をするなど次回へ繋がる取り組みをしてください。 3. 7.5コマという短い授業時間数の中で、多くの内容を習得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することなく出席してください。 			
その他	<p>実践を通しての学びが多くなりますので、常に運動のできる服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は、上履きが必要になりますので準備しておいてください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<p><領域「表現」についての基本的な考え方> 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」（特にリズム表現（含む身体表現））の位置づけと設定の理解（この回のみ、45分授業）</p>
2 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法1> 表現活動をのびのびと行える環境作りについて、その重要性と実践方法について</p>
3 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法2> 身体的表現（歩く、走る、スキップ、ギャロップの基本リズムパターンの理解とその応用）</p>
4 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法3> 身体的表現（ムーブメント（動くこと）について）(1)</p>
5 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法4> 身体的表現（ムーブメント（動くこと）について）(2)</p>
6 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法5> 音楽的表現（幼児用楽器の取り扱い方からそれらを用いた表現活動について）</p>
7 回	<p><表現する力を育てるための保育者の役割と援助1> ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現、そのあり方について</p>
8 回	<p><表現する力を育てるための保育者の役割と援助2> ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現 その発表とふりかえり 「こどもとリズム表現」そのまとめ</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと造形表現 I	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授 業 概 要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の表現領域を踏まえて、乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する講義をします。また、乳幼児の遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の活動と援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習を行います。			
授 業 科 目 の 目 的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。さらに、材料・用具の操作、体験などの実践を通した保育技術の獲得を目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解できるようになります。 2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解できるようになります。 3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できるようになります。 			
テ キ ス ト	こどもと造形表現 I / 船井武彦 / 豊岡短期大学 こどもと造形 I / 岩田健一郎・船井武彦 / 豊岡短期大学 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 / 内閣府・文部科学省・厚生労働省 / フレーベル館 / 150円 + 税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 / 内閣府・文部科学省・厚生労働省 / フレーベル館 / 249円 + 税			
参 考 書	授業の中で紹介します。			
成 績 評 価 基 準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容80%、定期試験70%の割合で評価します。			
メ ッ ク の セ ン ト 心 構 え と	乳幼児がモノに触れるという表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者としての力を貪欲に身に付けてください。 また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> 学習の進め方と心構えについて</p> <p><子どもの表現について> 保育所保育指針・幼稚園教育要領における「感性」と「表現」</p>
2 回	<p><幼児造形教育の変遷></p> <p><乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について></p>
3 回	<p><子どものえがく活動の環境づくりと援助について1> おおむね1歳未満児から3歳児</p>
4 回	<p><子どものえがく活動の環境づくりと援助について2> おおむね4歳児から6歳児</p> <p><小学校との連携について></p>
5 回	<p><振り返り・小テスト></p> <p><教材研究：教材と指導援助について1> 講義と「造形あそびとえがく活動」による実践的な学習1</p>
6 回	<p><教材研究：教材と指導援助について2> 講義と「造形あそびとえがく活動」による実践的な学習2</p>
7 回	<p><教材研究：教材と指導援助について3> 講義と「造形あそびとつくる活動」による実践的な学習</p>
8 回	<p><振り返り・まとめ></p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと造形表現Ⅱ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授 業 概 要	「こどもと造形表現Ⅰ」での学びをもとに、乳幼児の表現活動の発達過程に合わせて指導法を深める学習を行います。乳幼児の遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の活動と援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習をします。			
授 業 科 目 の 目 的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。「こどもと造形表現Ⅰ」で学習したことを踏まえ、新たな教材について、実践を通じた保育技術の獲得を目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解し、深めることができるようになります。 2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解し、深めることができるようになります。 3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が幅広く習得できるようになります。 			
テ キ ス ト	こどもと造形表現Ⅰ/船井武彦/豊岡短期大学 こどもと造形Ⅰ/岩田健一郎・船井武彦/豊岡短期大学 幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/150円+税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/249円+税 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館			
参 考 書	授業の中で紹介します。			
成 績 評 価 基 準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容40%、定期試験60%の割合で評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	乳幼児がモノに触れるという表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者としての力を貪欲に身に付けてください。 また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> 学習の進め方と心構えについて</p> <p><子どものつくる・造形あそびによる表現について> 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」(つくる活動の視点から)</p>
2 回	<p><つくる活動の乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について></p> <p><子どものつくる活動の環境づくりと援助について1> おおむね1歳未満児から3歳児</p>
3 回	<p><子どものつくる活動の環境づくりと援助について2> おおむね4歳児から6歳児</p>
4 回	<p><振り返り・小テスト></p> <p><教材研究：教材と指導援助について1> 講義とつくる活動による実践的な学習1</p>
5 回	<p><振り返り・小テスト></p> <p><教材研究：教材と指導援助について2> 講義とつくる活動による実践的な学習2</p>
6 回	<p><教材研究：教材と指導援助について3> 講義と園の行事に合わせた実践的な学習1</p>
7 回	<p><教材研究：教材と指導援助について4> 講義と園の行事に合わせた実践的な学習2</p>
8 回	<p><振り返り・まとめ></p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと言語表現	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	小西 律
授業概要	保育現場で使用される文化財について、絵本を教材にして役立つ技術を身に付け、自らが文化を創り、表現ができるようにします。実践を伴った授業から体験を通じた理解、こどもの文化についてより深く考察します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔軟な思考のもと、創造と想像の世界が構築でき、保育現場での表現活動に役立てることを目的とします。 2. 文字なし絵本を教材として、お話作りをすることから、こどもの言葉について感覚を養い、磨くことを目的とします。 3. グループでの双六の制作により、言葉、色彩等の完成を豊かにし、劇遊び等に発展できる力を持ち、文字・数についての指導力を養うことを目的とします。 4. 絵本の制作を通して、子ども達に何が必要か、与えるものの選択眼が身に付くことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの文化についての感性を磨き、日常使用される文化財について何をよしとするのか説明できるようにします。 2. 一つの教材を多面的に捉え、創意、工夫し、こどもの文化に役立つ力を付けることができるようにします。 			
テキスト	こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	絵本とは何か／松居直／日本エディタースクール出版部 わたしの絵本体験／松居友／大和書房			
成績評価基準	定期試験20%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢30%、課題・提出物、レポート20%、実践30%により、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	1年次の「こどもの文化」を踏まえての新科目です。1年次の振り返りから一歩進めた内容となっています。小型屏風絵本の制作にも取り組み、完成させ実践も行います。世界の中で私だけの1冊の絵本となります。制作の仕方の説明の後は前期の中でボチボチと計画を立てて取り組みてもらい発表もあります。一定の期間内の取り組みで進行しますので、自分の持てる力を精一杯出しきるという気持ちを持って臨んでください。(予習、振り返り、課題等は勿論取り組みます。)			
その他				

授業内容進行表

1 回	<言葉教材とこどもの文化 1> ペープサートと絵本の位置付け
2 回	<屏風絵本 1> 屏風絵本の特性 作成の仕方・留意点
3 回	<文字なし絵本 1> 文字なし絵本の特性、お話を制作する仕方・留意点、対象年齢
4 回	<文字なし絵本 2> お話作り
5 回	<文字なし絵本 3> 実践、意見発表、レポート作成
6 回	<双六 1> 伝承遊び 双六の歴史、意義、グループ編成
7 回	<双六 2> 制作（1）対象年齢、内容の構築
8 回	<双六 3> 制作（2）略画、言葉、数
9 回	<双六 4> 制作（3）色塗り
10 回	<双六 5> 制作（4）色塗り
11 回	<双六 6> 実践、意見発表、レポート作成
12 回	<望ましいこどもの文化 1> 授業の取り組みと調査から考察する
13 回	<望ましいこどもの文化 2> レポート作成、意見発表
14 回	<望ましいこどもの文化 3> こども達の現状と課題：将来を担うこども達に与えるもの
15 回	<屏風絵本 2> 読み聞かせ 実践 まとめ
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと音楽表現	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	田上栄美子・大江美歩子 大谷妃早子・松本 裕子
授業概要	<p>子どもが豊かな音楽表現活動ができるために、(1) 必要なピアノ演奏の基礎技術の習得 (2) 子どもの歌・童謡曲弾き歌いや簡易伴奏付けの技能の習得 (3) ソルフェージュ(読譜、リズム、音程)や歌唱(発声に気をつけて童謡や唱歌を歌う)を学びます。クラスをA・Bグループに分け、また、1回の授業を前半、後半に分けて行います。授業の前半に、Aグループは、ピアノ演奏や弾き歌い、Bグループは、ソルフェージュや歌唱を行い、後半は、交替します。内容により一斉授業で行う場合があります。授業内で、学習成果発表を随時行います。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもは、様々な音楽表現活動を通して豊かな感性を養い、イメージを豊かに広げていくものです。子どもの表現活動の特性や音楽表現活動の考え方を理解することにより、幼児教育に携わる保育者としての資質向上を図ります。その音楽表現活動を支える基礎としての音楽的知識、リズム感、読譜力、ピアノの演奏技術等の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動を展開するための方法と音楽的知識が習得できます。 2. 子どもの音楽表現活動に欠かせない歌唱(子どもの歌・童謡等)の技能を習得することができます。 3. 子どもの歌・童謡曲等の弾き歌い、簡易伴奏付けの技能等を習得することができます。 			
テキスト	<p>こどもと音楽表現/西野洋子著/豊岡短期大学 幼児のための音楽教育/教育芸術社/2000円+税</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領/文部科学省/フレーベル館/100円+税 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/190円+税 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館/120円+税 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館/190円+税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/150円+税 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館/249円+税</p>			
成績評価基準	<p>保育内容を理解し、適切な演奏ができる知識と理解がされているかを下記に示した割合で総合的に評価します。</p> <p>成果発表50% 定期試験40% 学習意欲10%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの練習の第一歩は、まず譜を見ながら音を間違いなく弾けるようにすることです。最初から全曲を弾こうとせず、1小節ずつ確実に弾きこなせるように毎日の練習に励みましょう。 ・様々な教材曲に共通する事柄(和声進行、リズムパターン、フレーズ構造)などに注目し、記憶に留めておく習慣をつけましょう。演奏力だけでなく保育現場で役立つ初見奏や伴奏法の向上にもつながります。 ・地道に学びの積み上げを行えば、習得した音楽に関する基本的な知識や技能は、今後、保育で行う豊かな音楽表現活動に必ず活きるものです。 ・子どもは音楽表現活動が大好きです。私たちが皆さんといっしょに、音楽表現活動を楽しみたいと思っています。笑顔で、明るい声で、体いっぱい表現活動しましょう。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	・オリエンテーション（学習の目標、授業内容、学習方法） ・領域「表現（音楽）」活動のねらいと内容について	16 回	・課題成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い、童謡曲等の独唱、初見演奏）
2 回	・ソルフェージュ（読譜、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う1 ・ピアノの演奏技術の習得1	17 回	・簡易伴奏付けの方法の習得、自然な発声で童謡や唱歌を歌う1 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い7
3 回	・ソルフェージュ（読譜、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う2 ・ピアノの演奏技術の習得2	18 回	・簡易伴奏付けの方法の習得、自然な発声で童謡や唱歌を歌う2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い8
4 回	・ソルフェージュ（読譜、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う3 ・ピアノの演奏技術の習得3	19 回	・簡易伴奏付けの方法の習得、自然な発声で童謡や唱歌を歌う3 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い9
5 回	・ソルフェージュ（読譜、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う4 ・ピアノの演奏技術の習得4	20 回	・簡易伴奏付けの方法の習得、自然な発声で童謡や唱歌を歌う4 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い10
6 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う5 ・ピアノの演奏技術の習得5	21 回	・簡易伴奏付けの方法の習得、自然な発声で童謡や唱歌を歌う5 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い11
7 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う6 ・ピアノの演奏技術の習得6	22 回	成果発表会（ピアノ演奏、童謡曲弾き歌い、童謡曲等の独唱、初見演奏）
8 回	成果発表会（ピアノ演奏、童謡曲等の独唱）	23 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う1 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い12
9 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で、童謡や唱歌を歌う7 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い1	24 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い13
10 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で、童謡や唱歌を歌う8 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い2	25 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う3 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い14
11 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で、童謡や唱歌を歌う9 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い3	26 回	・リズム伴奏をしたり歌に合わせて身体表現したりしながら、童謡や唱歌を歌う4 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い15
12 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う10 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い4	27 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う5 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い16
13 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う11 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い5	28 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う6 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い17
14 回	・ソルフェージュ（リズム、メロディ）、自然な発声法で童謡や唱歌を歌う12 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い6	29 回	・歌に合わせてリズム伴奏をしたり身体表現をしたりしながら、童謡や唱歌を歌う7 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い18
15 回	成果発表会（ピアノ演奏、童謡曲弾き歌い、童謡曲等の独唱、初見演奏） 夏期休暇中の課題発表	30 回	成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い、童謡曲等の独唱、初見演奏） 「こどもと音楽表現」の学習のまとめ
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育方法論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	伊藤 博
授業概要	「幼児のための教育方法とは何か」や「幼児教育課程の中に教育方法をどのように位置づけるべきか」を学習します。そして幼児の成長・発達に対応した教育の方法等、教育方法の理論的理解を深めさせると同時に、その具体化としてインターネットなど情報技術・PCなどの機器の活用方法を学習します。			
授業科目の目的	幼児の成長・発達に適切に対応した教育方法のあり方・その方法において、最近の情報技術の成果をどのように活用し、教育効果をあげるべきかについて取り上げます。また、情報化の進む中で幼児がインターネットなどの情報・技術を取得して社会での生活をスムーズに遂行できるようにするには、どのような教育をしなければいけないかを取り上げます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来教員を目指すため、現在の幼児教育の問題を考察する際の前提となる知識を身につけ幼児教育に対して深く理解できるようになります。 2. 実践的考察から、「教育方法とは何か」という基本的な問いへの答えを自分なりに結論を出せるようになります。 3. 課題に対する自身の意見や考えをまとめ、発表したり他のメンバーの意見や考え方などを参考にしたりしながら自身の意見や考えを修正できるようになります。 			
テキスト	自作教材を使用します。			
参考書	<p>教育方法論に関する文献などは授業中に適宜紹介します。</p> <p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	毎回提出のレポート30%、授業態度点20%、定期試験50%とします。			
受講の心構えとセー	<ul style="list-style-type: none"> ・日常からインターネットなどから幼児教育に関する話題などの情報を定期的に得るように心がけてください。 ・遅刻や欠席がないように毎回頑張ってください。幼児教育についてあなたに伝えたいことが沢山あります。 ・質問などは授業中に積極的に行うようにしてください。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	教育方法論の概要 教授学をはじめ、カリキュラム・教育評価に関すること、授業・教室に対する研究、教師教育に関することなど。また、コンピュータなどの機器を応用した教育工学を含む。
2 回	西洋の教育方法学史 1 古典的な教育方法
3 回	西洋の教育方法学史 2 一斉授業の成立
4 回	西洋の教育方法学史 3 新教育運動と教育方法 その後の西洋教育方法学
5 回	日本の教育方法学史 1 維新前後から第二次世界大戦の後までの教育方法学
6 回	日本の教育方法学史 2 1960年代以降、「教育方法の現代化」の取り組み
7 回	幼児教育の理論と実践 1 授業の方法
8 回	幼児教育の理論と実践 2 カリキュラムについて
9 回	幼児教育の理論と実践 3 教育評価について
10 回	幼児教育の理論と実践 4 授業分析について
11 回	幼児教育の理論と実践 5 教師の役割と専門性について
12 回	教育工学とコンピュータ 1 コンピュータの発達に伴い、それを応用した教育活動の実践
13 回	教育工学とコンピュータ 2 ICT（情報コミュニケーション技術）教育（1） コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラなどの基本
14 回	教育工学とコンピュータ 3 ICT（情報コミュニケーション技術）教育（2） デジタル動画教材の利用
15 回	今後の幼児教育の課題と教師の役割および総まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 相 談	2 年 ・ 後 期	講 義	30時間 (2 単 位)	伊 藤 博
授 業 概 要	<p>講義（解説などを含む）は最小限にして、自ら考えて学生自身による仲間との話し合いや資料を読むなどの学習活動を中心として進めます。そのため、各時間の授業内容に沿った「ワークシート」が準備されています。この「ワークシート」の中の設問や指示に従って自らが学習を進めていき、これまでの受け身になりがちな学習態度を自ら学ぶ方向へと転換することが、この学習のねらいともなっています。</p> <p>そして授業では、カウンセリングの基礎的なあり方について説明し、保育所や幼稚園現場での幼児・保護者対応の基礎ができるように事例研究やカウンセリングの基礎演習なども取り入れた実践的な授業を目指します。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>現在の幼稚園・保育現場の状況は、いじめや不登校など様々な問題に関してカウンセリングの基礎的な知識無しでは活動できないような状況にあります。授業では、カウンセリングの意義・理論や技法に関する基礎的知識の理解・習得を目指します。なお、定期面談や三者面談など、教育相談全般についての知識や基礎能力を育成することおよび養護教諭・学校医・スクールカウンセラーなどの専門家の職務の実際や連携の在り方についても学びます。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの意義・理論や技法に関する基礎的知識の理解・習得することができます。 (1) カウンセリングの意義・理論としては、1) 精神分析理論:精神分析的カウンセリング 2) 自己理論:来談者中心カウンセリング 3) 論理療法理論:論理療法(REBT)などを中心として理解することができます。 (2) カウンセリングの技法としては、「受容」「繰り返し」「明確化」「支持」「質問」の技法を習得することができます。 2. 教育相談全般についての知識や基礎能力を習得することができます。 3. 養護教諭・学校医・スクールカウンセラーなどの専門家の職務の実際や連携の在り方について理解することができます。 4. グループワークによる事例研究などの演習により、教育現場で起こりやすい事例を討議することで教育実践力を向上させることができます。 			
テ キ ス ト	自作教材を使用します。			
参 考 書	その都度、授業に於いて紹介していきます。			
基 績 評 価	毎回提出のレポート30%、授業態度20%、定期試験50%とします。			
メ ッ ク セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業でグループワークを実施しますので、シラバスをしっかりと読み込み自分なりの意見や考えを述べるように日常から教育に関する話題を新聞やインターネットなどから情報として得るように心がけてください。 ・ 遅刻や欠席がないように毎回頑張ってください。幼児教育についてあなたに伝えたいことが沢山あります。 ・ 質問などは授業中に積極的に行うようにしてください。 			
そ の 他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション・「教育相談」とは 心理学の知見からの援用
2 回	保護者からの質問への対応のあり方
3 回	カウンセリングに関する基礎的な知識（意義や理論）
4 回	カウンセリングに関する基礎的な方法（受容的態度と共感、傾聴とは） 1
5 回	カウンセリングに関する基礎的な方法（受容的態度と共感、傾聴とは） 2
6 回	教育相談とは何か（定期面談や三者面談などに関する基礎的な知識を含む。）
7 回	各領域（関係修復領域）のカウンセリングのあり方（基礎的な理論及び方法） 1
8 回	各領域（心理領域）のカウンセリングのあり方（基礎的な理論及び方法） 2
9 回	各領域（教育領域）のカウンセリングのあり方（基礎的な理論及び方法） 3
10 回	保護者・こどもとの対応・相談のあり方（いじめ、不登校、薬物等、幼児児童生徒の生命・健康にも関わる問題に対する対処方法等）、事例研究 1
11 回	保護者・こどもとの対応・相談のあり方（いじめ、不登校、薬物等、幼児児童生徒の生命・健康にも関わる問題に対する対処方法等）、事例研究 2
12 回	保護者・こどもとの対応・相談のあり方（いじめ、不登校、薬物等、幼児児童生徒の生命・健康にも関わる問題に対する対処方法等）、事例研究 3
13 回	保護者・こどもとの対応・相談のあり方（いじめ、不登校、薬物等、幼児児童生徒の生命・健康にも関わる問題に対する対処方法等）、事例研究 4
14 回	保護者の話を聞くための演習　ロールプレイ
15 回	カウンセリングに関わる専門家の職務の実際や連携のあり方 性格診断検査などを活用した自己理解・他者理解など基礎的なカウンセリングあり方
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
乳 幼 児 保 育	2 年 ・ 前 期	演 習	30時間 (2 単 位)	井 上 美 由 紀
授 業 概 要	<p>乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、現場の様子を紹介しながら、0～2歳の生活と遊び、安全管理など、具体的な取り組みと課題について授業を行います。</p> <p>人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者としての役割を理解し、適切な保育支援の習得を目指す学びを進めていきます。また、グループ討議や実践などの参加型授業で、乳幼児への理解をさらに深めていきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>わが国の乳幼児保育の変遷と、現代社会における家庭や子育ての現状を学び、乳幼児保育の基本を理解します。</p> <p>乳幼児期の発達を理解し、保育者としての必要な知識や技術を身につけていき、そこから乳幼児保育の実践に向けたイメージをつかみ、保育観を養っていきます。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の理念と歴史的変遷及び役割の学びを通して現代の保育と関連づけ、文章で説明できるようにします。 2. 乳幼児の発育、発達を踏まえた保育、生活や遊びの援助について具体的な学びの中で、実践力を身につけることができますようにします。 3. 現代社会における家庭や子育ての現状、乳幼児保育における連携、子育て支援の必要性を認識し、自分の意見で議論することができるようにします。 			
テ キ ス ト	<p>乳幼児保育/糸 幸男/豊岡短期大学 保育所保育指針・保育所保育指針解説書/フレーベル館</p>			
参 考 書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>授業への態度10%、発表20%、ミニテスト・提出物20%、定期試験50%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>保育者になるための学びであることを常に心におき、機会をとらえて乳幼児をみたり触れ合ったりする経験をし、テキストの理論と結びつけて子どもの実際の姿を認識していきましょう。</p> <p>自ら学習したふれあい遊び、手遊び等の発表やミニテストを実施し、実習や現場で生かせる内容を多く取り入れた授業を進めていきますので、予習、復習をしっかりと行い、関心を持って授業に臨んでください。</p>			
の 事 項 他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 乳幼児保育とは
2 回	<乳幼児保育の歴史、背景と制度> 乳幼児保育の意義、制度化、その背景
3 回	<現代社会と乳幼児保育> 現代社会における乳児、乳幼児保育の場
4 回	<乳児の発達と保育1> おおむね6か月未満
5 回	<演習> 乳児の生活への援助
6 回	<乳児の発達と保育2> おおむね6か月から1歳3か月未満
7 回	<幼児の発達と保育3> おおむね1歳3か月から2歳未満
8 回	<幼児の発達と保育4> おおむね2歳
9 回	<実践1> 手づくりおもちゃの作成
10 回	<実践2> 手づくりおもちゃの発表
11 回	<集団保育における安全と健康> 健康管理、清潔、事故、病気への配慮と処置
12 回	<乳幼児保育の計画> 保育計画と指導計画、保育の記録と反省、評価
13 回	<乳幼児保育における連携> 家庭との連携、職場内での連携、他機関との連携
14 回	<乳幼児保育と子育て支援> 現代社会における地域子育て支援
15 回	<乳幼児保育の課題> 待機児童、虐待、保育者の労働環境
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護内容	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	森合 真一
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきている。施設で暮らす子どもたちにどのような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。			
授業科目の目的	社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子どもの自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設で暮らす子どもについて理解ができるようにします。 2. 施設で暮らす子どもたちにどのような援助が必要かを理解し、援助技術を身につけることができるようにします。 3. 子どもの理解を支える業務上の技術を身につけることができるようにします。 			
テキスト	児童の福祉を支える 演習 社会的養護内容/吉田 眞理 編著/萌文書林/2012年/2,000円 (本体価格)			
参考書	保育者養成シリーズ 社会的養護/林邦雄・谷田貝公昭 監修/2014年/2,200円 (本体価格)			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点(講義中の態度・意欲など)を20%とします。			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 2. 講義前にはテキストを読み予習をしておくこと。また、講義後に講義内容の復習をしておくこと。 			
その他	講義内でレポートを課した場合、そのレポートの評価は平常点に含む。			

授業内容進行表

1 回	<子どもの権利擁護> 子どもの最善の利益、生存と発達保障、権利擁護の仕組み
2 回	<倫理および責務> 支援者としての資質と倫理、バーンアウトと共依存の予防
3 回	<施設養護の特性と実際 1> 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
4 回	<施設養護の特性と実際 2> 児童養護施設の暮らし、乳児院と母子生活支援施設の暮らし、医療型障害児入所施設の暮らし
5 回	<施設養護の特性と実際 3> 治療的支援と児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の暮らし
6 回	<施設養護の特性と実際 4> 福祉型障害児入所施設の暮らし、里親制度の特徴とその実際
7 回	<今後の課題と展望> 施設の小規模化と地域連携、地域住民と施設
8 回	<ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用> ソーシャルワークの活用、基本的日常生活支援
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習	1年次・後期 2年次・前期	実習	160時間 (4単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深め実践力を養い、幼稚園教諭の役割を理解します。</p> <p>併設の認定こども園で、1年次 2～3月に4日間の実習を経験し、それを基に2年次 4月～7月にA・Bクラスに分かれて7日間の実習をします。さらに、9月に学外幼稚園（認定こども園）で2週間の実習をします。</p>			
授業科目の目的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得してきた知識や理論を保育の実際の場で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や学習課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深めることができます。 2. 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解することができます。 3. 幼稚園教諭としての自己課題を明確化することができます。 			
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学			
参考書	<p>幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針・保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	各実習園からの評価80%、実習日誌等提出物の状況20%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場では、学生であっても保育者としての自覚をもち、わきまえのある態度で臨んでください。また、保育者としての身だしなみを考え、常に自己責任を意識しながら実習現場に立ってください。 ・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。先生が楽しければ幼児も楽しいものです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。 			
その他				

授業内容進行表

1 実習期間

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

○平成27年度入学生

〔併設の認定こども園での実習〕

平成28年2月 8日（月）～3月17日（木）のうち4日間

平成28年4月 8日（金）～7月15日（金）のうち7日間

（A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする）

〔学外幼稚園（認定こども園）での実習〕

平成28年9月5日（月）～9月17日（土） 2週間

○平成28年度入学生

〔併設の認定こども園での実習〕

平成29年2月6日（月）～3月16日（木）のうち4日間

平成29年4月7日（金）～7月14日（金）のうち7日間

（A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする）

〔学外幼稚園（認定こども園）での実習〕

平成29年9月4日（月）～9月16日（土） 2週間

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育実習事前・事後指導	1～2年・通年	実習	45時間 (1単位)	宿南 久美子
授業概要	<p>教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。1年次 2月～3月・2年次 前期に行われる併設の認定こども園での実習、さらに9月の学外幼稚園（認定こども園）での実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができます。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができます。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学ぶことができます。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができます。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができます。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができます。 			
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学			
参考書	<p>幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>受講態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で保育の楽しさを体験するために、事前指導で大切なことをしっかり学びましょう。 ・併設の認定こども園での実習記録のコピーを、毎回必ず提出してください。実習を積み重ね、幼児理解・保育者の役割等を深めていきましょう。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 幼稚園教育の特質・実習の意義と目的	16 回	<指導案の作成 3> 4歳児の指導案立案
2 回	<保育者としての倫理> 実習生としての心構え・守秘義務	17 回	<指導案の作成 4> 5歳児の指導案立案
3 回	<実習の内容と方法> 観察・参加・責任実習	18 回	<責任実習の振り返り 1> 自己評価と課題
4 回	<幼児理解と保育> 幼稚園・認定こども園の役割	19 回	<責任実習の振り返り 2> 自己評価と課題
5 回	<教育課程・指導計画> 長期指導計画・短期指導計画	20 回	<責任実習の振り返り 3> 自己評価と課題
6 回	<保育観察 1> 環境構成・幼児理解	21 回	<学外実習 直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7 回	<実習日誌の記録方法 1> 環境構成・幼児理解	22 回	<学外実習の振り返り 1> 実習体験発表
8 回	<保育観察 2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	23 回	<学外実習の振り返り 2> 自己評価と課題・実習体験集作成
9 回	<実習日誌の記録方法 2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	24 回	
10 回	<実践的演習 1> 幼児に即した歌・手遊び	25 回	
11 回	<実践的演習 2> 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26 回	
12 回	<オリエンテーション> 併設の認定こども園での実習に向けての心 構え	27 回	
13 回	<1年次の実習の振り返り> 報告会と自己評価	28 回	
14 回	<指導案の作成 1> 指導案とは何か	29 回	
15 回	<指導案の作成 2> 3歳児の指導案立案	30 回	
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習 I	1年・通年	実習	160時間 (4単位)	栗岡 あけみ 安達 美穂
授業概要	保育実習 I は、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児（利用者）とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。			
授業科目の目的	保育現場の実際に接し、子ども（利用者）の観察やかかわりを通して、子ども（利用者）への理解を深め、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。			
学習成果	<p>【保育実習 I（保育所）】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにすることができます。 2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解することができます。 3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を身につけることができます。 <p>【保育実習 I(保育所以外の児童福祉施設)】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居住型児童福祉施設の生活に参加し、居施設及び利用者とその家族について理解を深めることができます。 2. 居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し身につけることができます。 3. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得することができます。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／フレーベル館			
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書/フレーベル館			
成績評価基準	実習簿の内容20%、各実習園による評価（実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等）80%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 			
その他の事項	<p>利用する子どもや利用者の最善の利益を優先した実習実施ができるようにしっかりと準備して臨んでください。実習実施準備が整っていないと判断した場合は、実習の中止や延期、取り消す場合もあります。心して取り組んでください。</p> <p>成績評価は下記の2点が前提です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌を期日までに実習担当教員に提出していること 2. 実習後、実習園（施設）に礼状を送付したこと 			

授業内容進行表

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅰ（保育所実習）】 12日間（80時間）

前期

平成28年 8月 22日（月）～9月17日（土）のうち6日間観察実習

後期（下記の1～4のいずれか6日間）

- 1 平成28年12月21日（水）～12月28日（水）の6日間参加実習
- 2 平成29年 1月 4日（水）～ 1月11日（水）の6日間参加実習
- 3 平成29年 2月13日（月）～ 2月18日（土）の6日間参加実習
- 4 平成29年 2月20日（月）～ 2月25日（土）の6日間参加実習

【保育実習Ⅰ 居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間（80時間）

平成29年2月中旬～3月下旬 観察実習・参加実習

<履修上の注意事項>

保育実習指導Ⅰの履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導 I	1年・通年 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡 あけみ 安達 美穂
授業概要	<p>保育実習指導 I では、1年次に実施される保育実習 I（保育所・施設）の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設＜保育所2週間（80時間）、乳児院・養護施設・障害者施設など（80時間）＞の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、子どもへの理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。</p> <p>その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようにします。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようにします。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。 4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記すことができるようにします。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようにします。 			
テキスト	<p>保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>授業の中でプリント、資料を適宜配付します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、製作物など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。</p> <p>ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことかを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	< オリエンテーション・実習の意義 > 実習の目的と概要	16 回	< 指導案を立てるときの基本2 > (保育所) 指導案を立てるときのポイント
2 回	< 保育所保育の理解 > 保育所保育の目的と特徴	17 回	< 施設実習に向けて、実習の意義と目的 > 施設実習の性格と内容・意義
3 回	< 保育所生活の理解 > 保育所の1日の流れと保育展開例	18 回	< 指導案を立てるときの基本3 > (保育所) 保育計画に基づく指導案の作成
4 回	< 実習内容と心構えの理解 > (保育所) 実習の形態と方法 守秘義務と子どもの人権尊重	19 回	< 施設実習、施設の実際 > 施設の機能と役割
5 回	< 保育所実習の課題の明確化 > 自己課題の明確化と諸手続きについて	20 回	< 保育所実習課題の明確化 > 後期実習課題の設定
6 回	< 実習簿の書き方1 > (保育所) 実習簿の意義・記入上の諸注意	21 回	< 後期保育所実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認
7 回	< 実習簿の書き方2 > (保育所) 記録の取り方・記入方法	22 回	< 施設実習、実習の心構え > 実習前の自覚、実習中・実習後の心構え
8 回	< 保育所見学 > 環境構成・子どもの姿	23 回	< 施設実習、実習簿の書き方 > 記録の取り方と実習簿への記入の仕方
9 回	< 保育所見学のまとめ >	24 回	< 施設実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認 (施設)
10 回	< 前期保育所実習直前指導 > 準備事項の確認	25 回	< 実習体験の振り返り1 > (施設) 実習事後課題の明確化
11 回	< 前期保育所実習を終えて > 報告会 自己評価	26 回	< 実習体験の振り返り1 > (保育所) 反省と実習事後課題 体験発表
12 回	< 後期保育所実習について > 実習日誌の書き方	27 回	< 実習体験の振り返り2 > (施設) 利用者と施設の概要の理解 体験発表
13 回	< オリエンテーション・施設実習の心構え > 観察実習をとおして子ども理解	28 回	< 実習体験の振り返り2 > (保育所) 子ども理解と保育者の援助
14 回	< 指導案を立てるときの基本1 > (保育所) 実習における指導案	29 回	< 全体総括 > (施設) 保育実習課題の明確化
15 回	< 施設実習の課題の明確化 >	30 回	< 全体総括 > (保育所) 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年	実習	80時間 (2単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>社会の状況が変化し「子育て・子育ち」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようにします。 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようにします。 指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができるようにします。 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようにします。 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようにします。 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようにします。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	<p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 保育用語辞典／ミネルヴァ書房 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）80%、保育実習簿の内容（字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など）20%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。 体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。 			
その他	<p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）を履修していることが必要です。</p>			

授業内容進行表

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅱ（保育所実習）】 12日間（80時間）

平成28年8月18日（月）～8月31日（土） ・観察実習・参加実習・指導実習

実習計画

- ・< 保育全般への参加と保育技術の習得 >
- ・< 子どもの個人差理解と対応方法の習得 >
発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
- ・< 指導計画の立案と実践 >
- ・< 子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得 >
- ・< 地域社会に対する理解と連携方法 >
- ・< 子どもの最善の利益への配慮 >
- ・< 保育士としての職業倫理理解 >
- ・< 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化 >

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。</p>			
学習成果	<p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようになります。 ・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができるようになります。 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できるようになります。 <p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようになります。 ・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができるようになります。 			
テキスト	<p>保育所保育指針解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>			
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度20%、自主学習20%、提出物とレポート30%、発表態度と内容30%を総合して評価します。 ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。 先輩保育士から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してもらいたいです。 <u>また、子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。</u> 予習は、次回の授業の内容を読み、持ち物や提出物を整えることです。復習は、授業で出された課題を完成させ、提出できるようにすることです。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<p><保育実習における総合的な学び> 保育実習Ⅱの心構え、ねらいと内容 子どもの最善の利益を考慮した保育実習について</p>
2 回	<p><子どもの保育と保護者支援> 保護者支援の基本とコミュニケーション 職業倫理、手続き</p>
3 回	<p><保育の実践力の育成1> 責任実習での課題 総合（全日）実習とは</p>
4 回	<p><保育の計画と実践> 指導計画の実際と作成</p>
5 回	<p><保育実践力の育成2> 子どもの状態に応じた適切なかかわり 表現技術を生かした保育実践（遊びと教材研究）</p>
6 回	<p><実習直前指導> 実習課題の明確化と礼状の書き方</p>
7 回	<p><事後指導における実習の総括と評価1> 実習の総括と自己評価</p>
8 回	<p><事後指導における実習の総括と評価2> 自己課題の明確化</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 有 ・ (無)</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	福祉施設実習であり、8月中旬～下旬の10日間(80時間以上)の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深めます。また、子ども・家庭・施設職員との関わりを通して、保育士としての職業倫理や子どもの最善の利益の具体化について、体験を通して認識を深めます。</p> <p>児童福祉施設における養護を実践し、保育士として必要な態度と技術を習得するとともに、個々の利用者のニーズに対する理解力・判断力を養います。また、この実習を通して、自らの福祉観・援助観を構築し、福祉の現場に必要な倫理について把握します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解します。 2. 施設利用者の生活や思いを把握し、その背景もふまえた援助について実践できるようにします。 3. 保育士としての業務内容や職業倫理について実践を通して説明できるようにします。 4. 地域との連携や家庭への支援の実態について認識を具体化します。 5. 保育士としての自己課題を認識できるようにします。 			
テキスト				
参考書	保育所保育指針解説書/厚生労働省編/フレーベル館			
成績評価基準	実習施設評価(実習態度・実習内容)80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察力など)20%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の心に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢がなにより大切です。</p> <p>体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対にしないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。</p>			
その他	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			

授業内容進行表

「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上となります。

実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。

1. 実習施設について理解する。
2. 実習施設における支援内容の概要を把握する。
3. 利用者を理解し、個々に応じた養護を実践する。
4. 個別の支援計画に沿った養護を実践する。
5. 利用者の家族への支援について学ぶ。
6. 他職種との連携について学ぶ。
7. 地域の子育てへの支援について学ぶ。
8. 多様な業務及び職業倫理について学ぶ。
9. 実習日誌の記入によって考察を深める。
10. 実習を通して自己の課題について考察し、今後の目標を明確化する。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保育実習Ⅲ（施設）の事前および事後学習を行います。事前学習では、保育実習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことをもとに、本実習の意義・目的・方法を明確にし、より専門的な実習となるよう学びを深めます。さらに事前手続きの確実な実施と、実習に必要な社会人・職業人としてのマナーを身につけます。事後学習では、実習の振り返りとまとめを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題を明確にします。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅲ（施設）に向け、各実習施設やそこで暮らす子どもの姿を理解し、実習への目的意識や社会人、専門職業人としての自覚を高めることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できます。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができます。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できます。 4. 児童福祉施設の機能、そこで暮らす児童の状況、利用者の自立を支える保育士の役割について、具体的に述べることができます。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できます。 			
テキスト	<p>授業内において適宜資料を配付します。</p>			
参考書	<p>保育所保育指針解説書/厚生労働省編/フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>施設実習実施のための必須科目であることを自覚してください。授業では、施設保育士の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期限を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的な生活習慣について、考えながら行動していきましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	< オリエンテーション > 施設実習の意義と目的
2 回	< 施設の機能と役割 1 > 養護系施設実習の意義と目的
3 回	< 施設の機能と役割 2 > 障害児系施設の理解
4 回	< 実習計画の作成と事前準備 > 実習計画と事前書類の作成等
5 回	< 実習日誌の記入方法 > 実習日誌の意義・記入の仕方
6 回	< 実習直前指導 > 実習生としての心構え・準備物
7 回	< 実習体験の振り返り 1 > 体験発表
8 回	< 実習体験の振り返り 2 > 自己評価と課題
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育・教職実践演習 (幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南 久美子 赤澤 誠一
授 業 概 要	既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、様々な場面での保育カンファレンスを通して、学校現場で役に立つ指導力や実践力、また危機管理能力の獲得を図ります。			
授 業 科 目 の 目 的	本授業では、短期大学で学んできた知識と教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育者としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、教員としての研修の必要性と自己研鑽に努める自覚をもち、教職生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員として働く意味や使命感・責任感について答申や法律等を通して理解することができます。 2. 教員としての資質・能力とは何かを答申や法律等を通して理解することができます。 3. 教員としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができます。 			
テ キ ス ト	保育・教職実践演習/上長 然・國光みどり/豊岡短期大学			
参 考 書	幼稚園教育要領/文部科学省/フレーベル館 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館			
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの参加度40%で、総合的に評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	本授業は、教職課程の総まとめに位置づけられています。 本授業を通して自らの状況を把握し、克服すべき点を意識し、さらに習得すべき点は習得し、よりよい教員になるための授業にしていきたいと思います。			
の 事 項 他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	<教師という職業1> 教職の意義・教師にもとめられる資質と能力
3 回	<教師という職業2> 「教師」「保育者」になる
4 回	<保育者としての学級経営1> 学級とは・学級担任の役割
5 回	<保育者としての学級経営2> 課題のある子どもへの対応
6 回	<保育者としての学級経営3> 保育者自身の指向性と子ども
7 回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
8 回	<保育者としての学級経営5> 人権教育の観点から保育
9 回	<保育カンファレンス1> 生きる力を育てる保育-まなび-
10 回	<保育カンファレンス2> 生きる力を育てる保育-かかわり-
11 回	<保育カンファレンス3> 生きる力を育てる保育-いのち-
12 回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
13 回	<特別支援教育への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者
14 回	<保幼小連携> 幼保小のなめらかな接続のために
15 回	<まとめ> 保育者として働くということ
【定期試験】 (有) ・ 無	

1 回	< オリエンテーション・実習の意義と目的 > 保育士の仕事について	16 回	< 施設実習に向けての実習の意義 >
2 回	< 保育所の機能と目的理解 > 身上書の書き方など諸手続き	17 回	< 保育計画・指導計画 > 保育計画に基づく指導案の作成
3 回	< 実習の心構えの理解 > 守秘義務、子どもの人権尊重	18 回	< 施設実習に向けての施設の実際 >
4 回	< 保育所実習の課題 > 実習事前の自己課題の明確化	19 回	< 実習課題の明確化 > 保育実践演習 手遊び 絵本 紙芝居 パネルシアター等
5 回	< 実習簿の記入方法 > 実習簿の意義・記入の諸注意	20 回	< 後期保育所実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認(保育所)
6 回	< 実習簿の記入方法2 > 記録の取り方・記入の仕方	21 回	< 施設実習に向けての施設の機能と役割 >
7 回	< 実習施設の理解 > 保育所の一日の流れと保育展開例	22 回	< 施設実習に向けての実習簿の書き方 >
8 回	< 保育所見学 > 環境構成・子どもの姿	23 回	< 施設実習直前指導 > まとめ 準備事項の確認(福祉施設)
9 回	< 保育所見学のまとめ >	24 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 反省と実習事後課題 体験発表
10 回	< 前期保育所実習直前指導 > 準備事項の確認 (保育所)	25 回	< 実習体験の振り返り > (福祉施設) 実習事後課題の明確化 体験発表
11 回	< 前期保育所実習を終えて1 > 報告会 自己評価	26 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 子ども理解
12 回	< オリエンテーション・施設実習の心構え >	27 回	< 実習体験の振り返り > (福祉施設) 利用者と施設の概要の理解
13 回	< 前期保育所実習を終えて2 > 観察実習をとおして子ども理解	28 回	< 実習体験の振り返り > (保育所) 保育者の援助
14 回	< 施設実習の課題の明確化 >	29 回	< 全体総括 > (福祉施設) 保育実習課題の明確化
15 回	< 保育計画の意義 > 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法	30 回	< 全体総括 > (保育所) 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ (無)	

所 版

有 権

平成28年度 授業概要

平成28年4月1日発行（非売品）

〒668-8580 兵庫県豊岡市戸牧160番地

発行所 豊岡短期大学

電話（0796）22-6361

印刷所 三景印刷株式会社

京都府与謝郡与謝野町弓木 1865

電話（0772）46-3455

学籍 番号		氏名	
----------	--	----	--